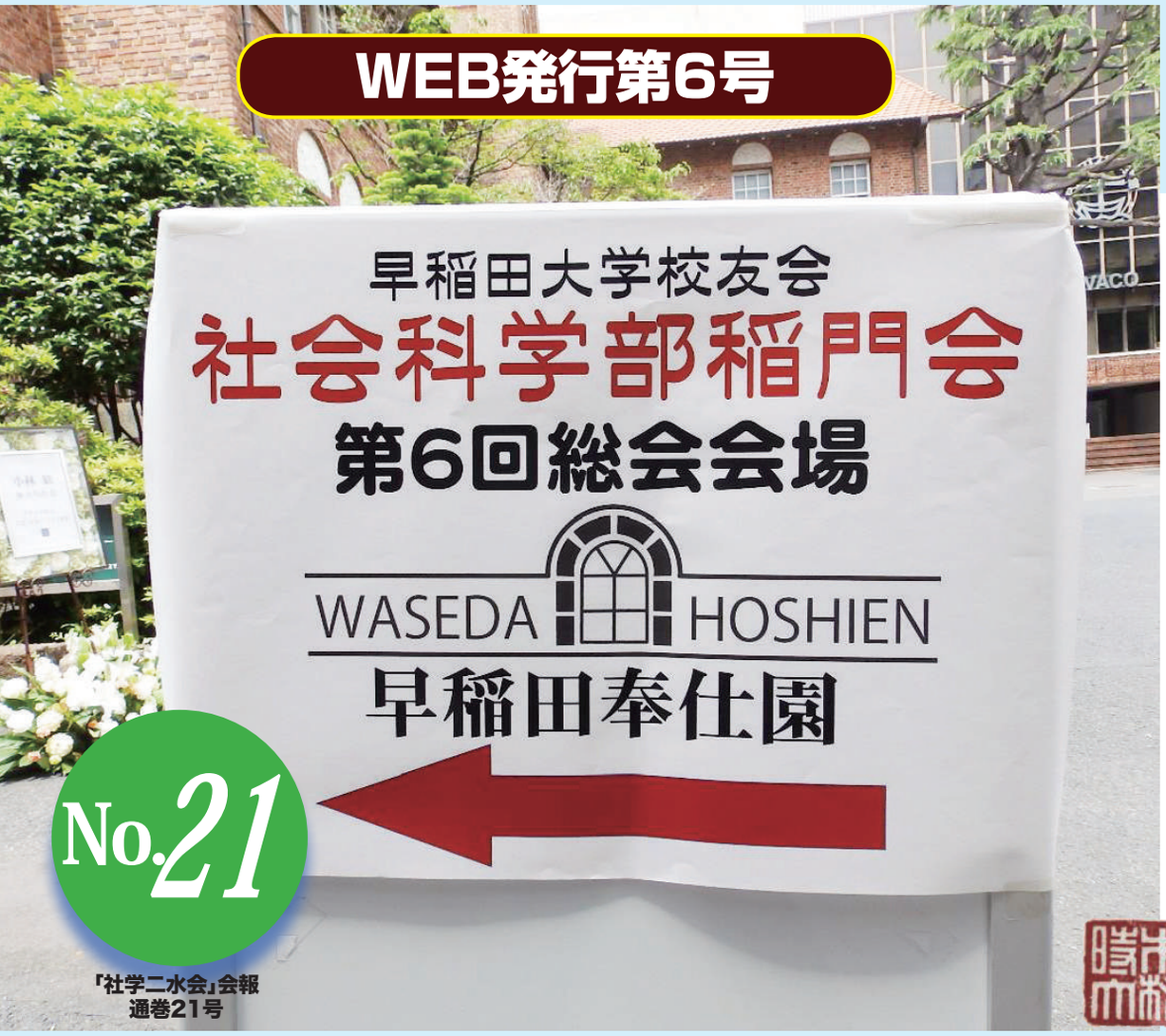
早稲田大学社会科学部
学部生・卒業生・教職員を繋ぐ
Communication Magazine

社学稲門会

WEB発行第6号



No.21

「社学二水会」会報
通巻21号

題字：第3代学部長
故木村時夫名誉教授

CONTENTS

『がんばれ！同窓生』～次世代に贈る言葉～ 第６回
「知行合一」で起業にチャレンジを！
ハイブリッド・ベンチャーズ／海老原 秀幸 …… 2

奨学生紹介
奨学生として社学生として／任 東彦 …… 8

新社会人です！
早稲田だからこそ、社学だからこそできた成長／増形 俊輔 …… 10
どんな時も早稲田スピリット、自分らしさを忘れずに…／黒川 美帆 …… 12

「社ガールの会」活動報告
ガールズトーク全開中!!／山野 千鶴子 …… 14
笑顔花咲く社ガールの会／高橋 恵子 …… 15

寄稿・被災地の労働歌（4年間の記録）
覚悟を決めて福島へ／永田 正行 …… 16

寄稿・伊東潤先生といく小田原歴史散策
伊東潤先生に魅了された小田原散策を満喫／伊東 相一 …… 18

寄稿・早稲田駅伝を振り返る
初参加で稲門会部門３位の快挙!／吉田 直人 …… 21

社学稲門会「総会」「講演会」報告
〈三位一体〉に願いを込めて
社学稲門会事務局長／佐藤 和美 …… 24

組織委員会主催「遠足」レポート
社学稲門会組織委員会／井上 功 …… 26

「社学稲門会」報告
「大・同窓会&奨学金授与式」のご案内 …… 28
2018年稲門祭「記念写真コーナー」運営スタッフ大募集 …… 29

「会員満足度調査」結果報告
継続したアンケート調査で会の健全な発展に寄与を！／吉田 直人 …… 30

25周年に向けた「会史編纂」のご協力依頼
「社学二水会」から「社学稲門会」への歩みを振り返る …… 32

寄稿・紆余曲折
青春の思いに古希あり（社学とWFBC）／宇佐美 史夫 …… 33
稲門会との出合いで、定年後の人生に希望の光が…／渡邊 薫 …… 36

ゼミリレー⑲久塚純一ゼミ
ヴァルトブルク城に守られながら／千葉 文彦 …… 38

編集後記

Come & join us again! Come & join us again! Come & join us again! Come & join us again! Come & join us again! Come & join us again!

★OB・OGインタビュー★

『がんばれ！同窓生』～次世代に贈る言葉～』

第６回

ハイブリッド・ベンチャーズ㈱　代表

海老原　秀幸 さん（2003年卒）

「知行合一」の精神で起業にチャレンジを！

社会の壁と悪戦苦闘を繰り広げた勇者達、荒波をものともせずにスイスイと乗り越えていく若者たち、そして今でも先頭を走り続ける仲間たち。

広報企画『がんばれ！同窓生』は、社会科学部を卒業し、ご活躍、ご奮闘されている同窓生の方を紹介し、その同窓生から多くの同胞、特に若者たちに向けてメッセージをいただいています。

第６回は、サイバーエージェント・ベンチャーズの韓国代表を経て、新たにハイブリッド・ベンチャーズを起ち上げた海老原秀幸さんにお話を聞きました。（文責：伏見英敏）

●「起業」とはほど遠い学生時代を…

――早速ですが、早稲田を目指したわけは？

海老原：志望理由は明確には覚えていないのですが、学生当時は“ブランドがある大学に入りたい”というミーハーな一心しか無かったと思います。漠然と早稲田という名前に憧れていました。慶応大学と比較し、荒々しい武骨なイメージが有るのも自分には合うのではと思っていました。いろいろなタイプの人間が集まり、互いにぶつかり合う雑多なイメージも個人的な嗜好に合っていたと思います。

――入学年度と卒業年度は？

海老原：1998 年入学で 2003 年卒業です（1 年留年です）。

――社会科学部が昼夜開講していた時代ですね。

海老原：朝早い授業はないし、昼から夜までの長い時間帯で学べるという一番贅沢な時代だったかもしれません。

――この企画に登場された先輩たちの中には、毎日早稲田には来るけれど、教室にたどり着く前に友人につかまって雀荘や居酒屋にたどり着くというパターンも多いようにお聞きしていますが、海老原さんはどうでしたか？

海老原：全く同じですねぇ（笑）。

――早稲田での学生時代はどんな風に過ごされましたか？

海老原：学生時代はアルバイトや課外活動に大半の時間を費やしていました。今、また学生に戻ったなら自分も学生起業をしてみたいなという気持ちがありますが、当時は起業の「き」の字も知らない状態でしたので、本当に今振り返ると勿体無い時間の使い方をしてしまったなと後悔する点も多々あります。

――どちらのゼミに？

海老原：後藤光男先生の人権法ゼミです。温和で学生に任せるスタイルを貫きながらも、時折大変勉強になるご指摘をいただきました。

――人権法ですか、固そうなテーマですね。

海老原：そんなこともないですよ。サークルの先輩に引っ張ってもらったということもありますが。近代会計学会 OB で社学稲門会の副島先輩とか……。昔はとてもまじめなサークルと聞いていましたが、僕らの頃は遊び中心でして（笑）。でも、僕は簿記２

級まで取りましたよ。

――おお～、素晴らしい。さきほどアルバイトばかりしていたということでしたが、どんなことに力を入れていましたか？

海老原：アルバイトといっても何か目的を持って働いているよりは、特にすることもないのでサークルの紹介で日本人事試験研究センターというところで続けていました。正直、人の参考になるような学生時代を送ってはいないと思います。本当にモラトリアム期間のように時間が流れていってしまった印象です。自分はこれをやり切ったという、それが遊びでも学業でも、運動でも課外活動でもいいのですが、そんな経験をする必要があったなと。特に就職活動時に痛感しました。自分探しではないですが、一生懸命に取り組んだ結果、自分の性格や嗜好というものに気付くことが出来るのではと思います。

――早稲田でよく通ったお店とかメニューを覚えていらっしゃいますか？

海老原：閉店がニュースにも取り上げられていた“エルム”という食堂には先輩や仲間達とよく通いました。多人数で行くと、同じ注文をしないとご主人から文句を言われるという店で、かなり独特な世界観を持ったお店でしたね。あとは珍味だとか、ラーメンの“メルシー”には時々通っていました。

●サイバーエージェント入社が大きな転機に

――在学中の就職活動は、どんな感じでしたか？

海老原：当時は就職氷河期と言われる時期で、非常に苦労した覚えがあります。勿論、環境の問題というより、私個人の問題が原因ということもありますが……。新卒の就職は、自分の希望通りには行かず、非常に強い挫折を味わいました。

学生時代に特に何も考えて過ごして来なかったので、その分のツケが回ったということだと思います。就職した後も自分が望んだ職種ではあったものの、望んで入社した会社では無かったので、早くスキルを身につけて、転職したいと思っていました。社内ではなく、外部に目が向いていたので、当時の上司にとっては扱いにくい、生意気な社員だったと思います。

――今の仕事を始めたきっかけは？

海老原：前職のサイバーエージェントに2005年に入社したことがきっかけです。現在の私の仕事はベンチャーキャピタルという投資事業ですが、当時はベンチャーキャピタリストになりたいという気持ちは微塵もありませんでした。私がサイバーエージェントに入社を決めたのは、新規事業の立ち上げに携わりたいという思いからでした。ところが配属されたのがサイバーエージェント・ベンチャーズというベンチャーキャピタル事業を営む子会社でした。

サイバーエージェント・ベンチャーズに入社後は、

●海老原秀幸さんプロフィール

早稲田大学社会科学部、2003年卒。
マーケティングコンサルティング会社にて、大手メーカーを初めとした各種マーケティング・プロモーション戦略の立案と実行支援に従事した後、2005年6月よりサイバーエージェント・ベンチャーズ（当時サイバーエージェント・インベストメント）へ入社。投資先企業に出向し、常勤のボードメンバーとして戦略立案からオペレーション改善等のハンズオン業務に携わり上場企業へのバイアウトを経験。
その後、日本国内にて20社の投資及び投資先のインキュベーション活動を経験し、2012年10月より韓国投資事業の立ち上げのためソウルに駐在。韓国法人代表として韓国企業への投資活動及び経営・グローバル展開の支援に従事。
2017年8月末にサイバーエージェント・ベンチャーズを退社し、ベンチャー企業の社外取締役や上場企業の新規事業立ち上げをしながら、現在新たにアジアにフォーカスしたベンチャーファンドの立ち上げを準備中。

大学時代のサークル、アルバイトの先輩、仲間達と

直ぐに投資事業に従事したのではなく、支援先企業に出向して約２年間、役員として事業立ち上げ、オペレーション、資金調達など幅広い経験をさせて頂きました。その後、その企業が大手のグループ会社傘下に入る事となり、私はサイバーエージェント・ベンチャーズに出戻り、日本のスタートアップ企業への投資に携わることになったのです。その時の経験から私は現在でもベンチャー企業と一緒に新しい事業や産業を創っていくことに、より意識が向いています。

ベンチャー投資は出資をして将来的に投資時よりも高い金額で株式を売却し、回収するビジネスであり、それを出来なければ市場からの退場を余儀なくされるビジネスではありますが、それをクリアしながらも、ただ投資するだけでなく、事業を創出する何らかのきっかけやスパイスとなれる立場になりたい、有り続けたいと思っています。

●韓国企業に代表の立場で出向して

――立ち上げ時の苦労話や達成感などをお聞かせいただけますか。

海老原：私は２つの立ち上げ経験を持っています。

ひとつは、サイバーエージェント入社後に出向した支援先の事業の立ち上げです。入社直後に事業運営経験も全くないまま放り出されたので、最初は知識的にもスキル的にも非常に苦労しました。勿論、周囲のメンバーとのコミュニケーションという点でも非常に苦労した記憶があります。自分が若いながらも取締役という立場だった為、必要以上に気張ってしまいました。もう少し柔軟に立ち回ることが出来ればよかったのでしょうが、若いので当時は難しかったですね。

たった一人で敵陣に送り込まれた気分でした。思い通りになることはひとつも無いですし、新規事業がやりたいと思って入社したのに、営業を手伝ったりと、新規事業なので自分たちで営業するのは当たり前なのですが、本当にゼロから色々と経験しました。この経験でビジネスマンとしても成長出来たのではと思います。

もうひとつは、海外拠点（ソウル拠点）の立ち上げです。

――韓国に渡ったのはいつ頃ですか？

海老原：2012 年 10 月です。

――韓国には代表という立場でということですが、会社としての下地のようなものはあったのですか？

海老原：全くないです。ただ、この時は既に社会人経歴が 10 年近くあっての挑戦でしたので、そこまで未知との遭遇という感じは無かったです。文化面や商習慣での初遭遇は多かったのですが、右も左も分からない混乱状態というよりは、課題が上がってき

韓国の支援先企業での忘年会にて。『明日もスンリ』をはじめ日本でもお馴染みの韓国スター、チェ・フィリップさんと

たらひとつひとつ潰していくというイメージです。

オフィスの賃貸から一緒に働く社員の採用までやりましたが、韓国は日本語で対応して頂ける協力会社も多いので、言語面で凄い苦労したということも無かったです。ただ、思ったことを直接伝えられないジレンマや消化不良感は常に付きまとっていました。また従業員のマネジメントも国が違うと、どうしても感覚的に一筋縄で行かないことも多く、日本と韓国の差もありますので、その間で苦労したことも多々あります。

――韓国は一番近い外国ですが、意外なほど知られていないことが多いですね。

海老原：韓国はスピード重視な反面、日本は減点方式で慎重に進める傾向にあり、非常にストレスが溜まりました。自分で出した結論は、自分は韓国でビジネスをするのだから、韓国の方に自分を寄せたスタンスを取るようにしたのですが、そこに至るまでは大変でしたね。

必ずしも今までのやり方が正しいわけではないですし、日本が独特であると今でも思っています。自分達のやり方や価値観に囚われすぎると、海外でのビジネスは難しいなと痛感しました。多様性と言葉でいうと一言で済みますが、実際、自分とは異なる環境や背景で発展してきた市場や人々と対峙するというのは、言葉でいうより難しいです。

ただ、私自身は異なるものを融合出来てこそ、新しい価値を生み出すことができるのではないかと思っています。軸を持つのは重要ですが、常に変わることを恐れてはいけないなと思います。

――サイバーエージェント・ベンチャーズは何故韓国をステージにしたのか教えていただけますか。

海老原：韓国はもともとインターネットの先進国で、以前からそこに投資してみようという考えはあったと思います。サイバーエージェント自体がインターネットに特化していて、自分たちの得意分野でもあるからです。

●日韓におけるインターネット環境の相違

――韓国は、インターネットの先進国ということですが、日本と比較して具体的に感じる違いはどんなところですか。

海老原：まず、インターネットの普及率が高いですね。スマートフォンで90%以上でしょうか。しかもリテラシーが高いです。要は、リアルに実社会が豊かになる前にインターネットが入ってきているからだと思います。動画もビデオよりネットで、ゲームもファミコンというよりオンラインゲームでというように、日本よりも生活に根付いているように感じます。例えば、今の中国はもともと（旧インフラが）何もないところにモバイルが入ってきているので、既にモ

韓国法人 社長時代のメンバーと。右が副社長、左がアシスタント

バイルを活用した決済が日本よりもずっと進んでいるのと同じです。

――日本は順々に欧米のインターネットの技術を取り入れて進展してきていますね。PHS や携帯電話、そして 21 世紀に入ってようやくスマホが発達してきた。ところが韓国や中国はその進展の「あいだ」を抜いて急速にスマホやタブレットに入ったということですね。

海老原：そうですね。日本の場合は、全ての産業において既得権益者とか利害関係者がとても多いので、なかなかインターネットは普及しにくいのだと思います。

――日韓の企業や働き方で感じる違いなどはどうですか。

海老原：ドメスティックな価値観が強い両国ではありますが、グローバル競争に身を晒されているという観点では、韓国の方が企業も個人もグローバル対応出来ていると思います。

また、韓国はスピードを重視しますが、日本は合意形成や抜け漏れのチェックに相当の時間をかけます。日本は行動する前の計画性や、それぞれの事象に対して深く考えたりすること、全体との調和や協調性を重視しますが、韓国はより個にフォーカスしている印象があります。また、スピード重視で、多少の抜けや漏れは後から修正できるという考えです。

組織的な面では韓国の方が上下関係は強い印象がありますが、にもかかわらず意見を伝えるという点は韓国人の方が強いと思います。日本人は理不尽でも我慢し続けるが、韓国人は自分の考えや不満を、受け入れられるかどうかは別に、主張します。日本企業の印象はスピードが遅い、慎重という事に尽きますね。

――日本の企業や個人のグローバル化が遅れている理由はどんなところにあると思いますか？

海老原：日本は人口が 1.2 億人もあり、国内市場がそれなりの規模で存在しますので、グローバル化を強いられる環境になかったという点にあると思います。これは日本人の能力や適応性の問題ではなく、時代が急速に変化し世界の中で日本を見直した時、現状ではグローバル化が遅れているということになったということだと思います。イノベーションのジレンマのような事が国単位で起きているということではないでしょうか？

●ハイブリッド・ベンチャーズを起業することに

――そんな中での起業ですが、ハイブリッド・ベンチャーズはどんなことをやっていくのですか。

海老原：独立（2017 年）のきっかけは、自分でやった方が面白いかなと思ったからです。これまでの経験をもとに基本的にはベンチャーのファンドを作っ

て投資して、新規事業もやっていきたいですね。

日本の場合、あらゆる面で既存企業が強いので、アメリカのようにドラスティックな規制改革でアマゾンやグーグルのようなインターネット企業がどんどん出てくるという感じのマーケットではないと思います。大企業と新しい企業がある程度一緒にやっていくようなやり方が文化的にもスムーズなような気がします。そのあたりを促進できるようなやり方が良いのかなと思っています。

――仕事をする上で、一番大事にしていることや気にかけていることを教えていただけますか？

海老原：学び続ける意識を持つことです。我々の仕事には、こうすれば成功するという法則がありません。過去の成功体験さえも足枷になる可能性があります。世界がどう変わっているのか、日本がどう変わっているのか、人々や価値観がどう変わっているのかということにアンテナを張り、近い将来どんなものが求められて、どういう事業が発展するか自分なりに仮説を持ち続けることだと思います。

また、奢らず謙虚にいる必要がありますし、起業家や事業を実際に営む方を尊敬することも重要だと思います。いろんな人に会っていろいろな情報を集めて自分なりに咀嚼していくということを大事にしたいと思っています。

特にインターネットの事業も実際のリアルな事業とクロスしてくると、インターネットだけで完結しなくなってきます。既存の産業の方々にお会いしたり機知に富む話を聞いたりして、どういう形でインターネットを活用していけるかなどを考えていく必要があると思うのです。

●失敗を恐れない若き力にエールを

――毎日ご多忙かと思いますが、仕事を離れたところで、いま一番気に入っていることは何ですか？

海老原：40歳近くになり、いかに自分の体、精神を健康な状態に維持するかという事に意識を払うようになりました。その点でいうと、体のメンテナンスには若い時と比較したら、かなりの時間を費やしています。

また、身の回りのものを整理整頓したり、定期的に不要な物を捨てたりすることは意識的にしています。

――社会科学部の学生や若者に期待することや応援のメッセージをいただけませんか。

海老原：私も入学した時に、4年間はあっという間だと言われましたが、そのとおりでした。今でも数年前まで大学生だった気持ちですが、もう15年以上前のことになってしまいました。社会科学部は社会にまつわるあらゆることを広く学び、自分なりに昇華できる事を学べる学部だと思います。

学業だけでなく、それ以外の打ち込む事を見つけ、その2つを客観的にリンクさせていくことで、新しい気付きや学びがあるのではと思います。

また、是非学生の皆さんには起業や事業を創る分野に興味を持って、チャレンジして頂ければと思います。インターネットの占める重要性が増している今、より若い視点での事業構築も求められてきていると思います。

学生時代は失敗しても、正直どうってことないので、やってみればいいと思います。極論すれば、大きな失敗をしたほうが、それはそれで就職の面接で話せるネタになるのはと思います。それ位思い切ってやってもいいと思います。

●社学が生んだ気鋭の起業家に期待して…

「早稲田の武骨なイメージ、いろいろな人間が集まってぶつかり合う雑多なイメージが自分に合っていると思った」と語る海老原さん。やや低音の語り口と時折のぞく人懐っこそうな笑顔が印象的だ。

早稲田での学生生活は15年前も30年前もあまり変わりがないようで、「あっという間の4年間に学業ともうひとつ打ち込める何かを見つけよ」と学生時代にしかできないことにチャレンジしてほしいと自らの反省を込めたエールを送ってくれた。

ベンチャーキャピタルの話になると一層熱が入り、さらに日本のグローバル化の遅れは「イノベーションのジレンマのような事が国単位で起きている」と語り、「大企業と新しい企業の協業が日本の文化にはあっているのでは」と指摘する。

海老原さんはあらゆるところにアンテナを張り、いろいろな人と会ってますます魅力的な人間になっていく人だなという予感がする。彼が手がけて育てたベンチャー企業がユニコーンになる日もそう遠くないと期待している。

奨学生紹介

任　東彦
２年生

奨学生として、社学生として

東京生まれ、東京育ちの韓国籍の社学生として

●ゼミの課題に四苦八苦も大学生活を謳歌

世の中がワールドカップに熱中しているなか、それには一瞥もくれず「課題の量、半端ないって！」と嘆きながら、合間を見つけてこの文章を書いている任東彦と申します。この度は『社学稲門会会報』に寄稿する機会をいただけたことに感謝いたします。

簡単に自己紹介をしますと社会科学部２年生で、自分で言うのもなんですが大学での授業にまじめに真剣に取り組んでいます。国籍は韓国ですが、東京で生まれ東京で育ったため、苦労することなく、このように文章を書いております。１年生のうちに自分の興味のある分野の授業を幅広く受けて、現在では学部長の山田満先生のもとで一番興味のあった国際関係と平和構築についての理論を学んでいます。サークル活動をしていない僕にとって、ゼミが始まりようやく大学生らしくなってきたと胸が躍る今日この頃です。

去年の秋に社会科学部卒業生奨学金を頂きました。早稲田大学には僕が入りたいと望み、努力して入学しました。親も応援してくれて合格した時には泣きながら喜んでくれました。しかし私立大学ということで決して安くはない学費を親がほとんど負担している状況でした。

お世辞にも裕福とは言えない家庭だったため、今回の奨学金は大きな支えとなりました。また外国籍である僕を対象外とせず平等に評価していただき感激しました。奨学金採用通知をメールで見たときに帰りの都電でどれほど嬉しくて叫びたい気持ちを我慢したことか。

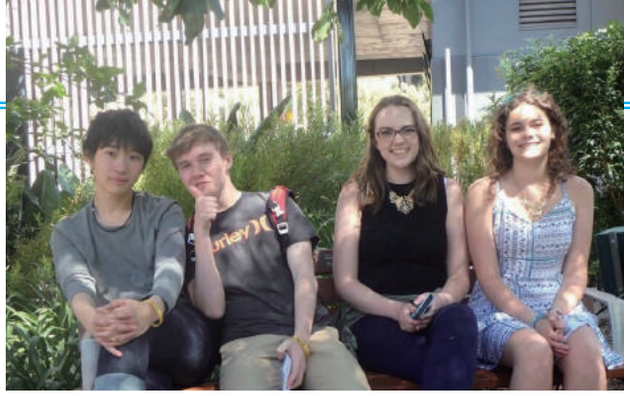
このような支援を受けて社会科学部を嫌いになれという方が難しいです。このときから僕は社学から頂いた期待とご恩にいつか必ずお返しができるように努力しようと決心しました。今後はより一層どん欲に、様々な科目に挑戦していくつもりです。

●パイロットの夢を実現するために

そんな僕の普段の日々はというと主に授業、ジム、バイト、英語学習の組み合わせで構成されています。「サークルはやっていない」と言うと、「大学生活楽しいの？」と質問されることが度々ありますが、僕にとっては要らぬ心配です。確かに、サークル活動に勤しむ大学生活を羨むときもありましたが、僕は僕なりに意外と充実しているような気がしなくもないです。

授業以外のことは卒業後の進路のために取り組んでいます。小さい時から民間飛行機のパイロットになることが夢だったので、それに向けて頑張っている最中です。韓国にいる家族に会うために飛行機を目にする機会が多く、いつの間にか憧れの職業になっていました。某麦わら帽子のゴム人間（『ワンピース』のルフィ）のように、今の今まで一度たりとも自分の夢が変わったことはありません。

大学に入った頃には本格的に準備していこうと、航空大学入試のために物理や数学を勉強し直



パイロットになるには英語は必須なので…

したり、筋力・体力づくりや健康管理のためにジムにて運動をしたりするようになりました。パイロットに関して調べれば調べるほど、身体試験突破の難しさを知り自分の体調には特に気を付けるようになりました。

２年生になるころには英語の復習を行うように心がけました。現役のパイロットの著作に、学生時代からパイロットを目指すのなら、英語を勉強しておくことをすすめると書いてあったのです。その一文を読んだ瞬間に親に「留学したい」と懇願したら快く了承してもらえました。

今は秋に行われる留学プログラム募集にむけて準備を進めています。留学許可が下りてほしいと願う日々です。現在では全日空か日本航空が採用する自社養成パイロットに内定をもらうことが僕の最大の目標です。

●奨学生となり気持ちの余裕と選択肢を得て

ここまで僕自身のことについて書いてきましたが、このように前向きに挑戦してみようと思えるようになったのは社会科学部卒業生奨学金を頂けたことが大きく影響していると思います。

僕の場合はやりたいことが決まっていたのですが、やはり経済的問題から不安に感じることもありました。しかし奨学生に選ばれたことで経済的支援を頂き物理的にも精神的にも大変救われました。このおかげで気持ちに余裕ができ選択肢も広がり、思い切り行動してみようと思えました。

授与式の際この奨学金が社学の卒業生の方々からのご寄付から成り立っていること、また他学部よりも寄付された金額が多かったことを知り本当に卒業生の皆様のご厚意が込められた奨学金なのだと実感しました。

稲門会の方とお会いした時も、真剣に僕の話を聞いてくださったり気さくに話しかけてくださったり、大学生活のアドバイスをくださったりと社学生、そして人生の先輩としてとても頼られる方がたくさんいらっしゃって、心地の良い時間を過ごすことができました。

「奨学生採用通知書」に恥じない充実した学生生活を

●任（イム）　東彦（アズヒコ）くんプロフィール

韓国籍。新宿で生まれ育ったが、現在は板橋区にてひっそりと在住。アニメヲタク。同じ社会科学部出身のUSGの斎藤宏介さんと声優・悠木碧さんのファン。アニメや漫画が大好きで、時間があるときはNETFLIXで色んな作品を見ることが最大の楽しみ。BOOKOFFめぐりもよくする。山田満先生のゼミで、国際関係について勉強中。

社会科学部そして社会科学部稲門会から頂いたご恩に必ず報いたいと思います。学生として真剣に勉学に励むことはもちろん、色々な経験を積み、夢を実現させます。そして将来、ぼくのように困っている社学生のためにこの奨学金が活用されるよう、僕も貢献したいと思います。

この度は僕に社会科学部稲門会の会報に参加できる機会をくださりありがとございました。将来の夢もそれに向けて頑張っていることもこの会報に残るということで、逃げ道が絶たれました。最高です。他の誰が何と言おうと、僕は社会科学部生としての誇りをもって、寛大な卒業生の皆様のような人になれるようこれからも努力していきたいと思っております。

最後にもう一度、社会科学部卒業生奨学金をいただけて本当に感謝いたします。奨学生として卒業まで自覚と責任をもって今後の大学生活を過ごしてまいります。

新社会人です！

増形　俊輔
2018年卒

ゼミ合宿にて

早稲田だからこそ、社学だからこそできた成長

●証券会社の新人としての現在

2018年３月に早稲田大学社会科学部を卒業し、現在は社会人１年目として、証券会社の本店営業部で働いています。

新人である私の仕事は、主に東京の未上場法人や、その経営者・従業員に対する新規開拓営業と、資産運用の提案や最新の市場情報の提供などのコンサルティング業務です。まずは自分のお客さまをつくるために、担当エリアの法人にアプローチをします。１日100件～150件以上電話をかけ続ける日もあれば、１日何件も会社を訪問することもあります。このような地道な努力の甲斐あって、現在では10人ほどのお客さまにお付き合いをいただいております。

実際に働いてみて感じることは、日本人はまだまだデフレマインドが強く、直接投資に対しても抵抗感が強いということです。今は、日本銀行が２％の物価上昇を目標に大規模な金融緩和を継続的に行っており、銀行に預金していても、マイナス金利の影響でほとんど金利が付かない時代です。そのような社会情勢の中で、日本は欧米諸国と比較して現預金の割合が高く、５割を超えているという現状があります。また、営業をしていると、「投資はよくわからないからやらない」という人も非常に多く、まだまだ社会的に金融リテラシーは高くないと実感してしまいます。

このままでは、この先も日本企業の成長力は上がらず、日本経済も停滞したまま抜け出せなくなってしまうかもしれません。証券マンとして、「貯蓄から投資へ」の流れを推進して、お客さまのご利益と日本経済の活性化に少しでも貢献することが、今の私の目標です。とはいえ、毎日電話では断られ、知識不足や経験不足を痛感することばかりなのが現実です。上手くいかなくても、新人らしく日々研鑽を重ね、失敗を恐れずに仕事に取り組んでいきたいと思います。

●ソフトボール部で日本一を達成

現在はお客さまのために日々営業活動に励んでいる私ですが、大学時代の生活は、社会科学部での学びと、日本一を目指して活動したソフトボール部の二本柱でした。この２つの経験によって、大学時代は大きく成長することができました。

ソフトボールは中学から現在までずっと続けており、始めた当時から、ソフトボールの強豪早稲田大学に入学することを夢見ていました。そのため、憧れの早稲田大学でプレーできた４年間は、私にとって宝物のような時間でした。

１年生の時には、インカレ（全日本大学選手権大会）で優勝し、日本一になることができました。当時はレギュラー選手として試合に出ていたわけではありませんでしたが、日本一になることを目標に何年も練習を重ね、結果として優勝に貢献することができたので、大きな達成感がありました。

また、アメリカで開催された、U-23のワールドシリーズ（世界大会）にも参加することができました。参加国はアメリカ、カナダ、メキシコなどの北米が中心で、日本からは早稲田大学が参加しました。初の国際舞台でしたので、桁外れのパワーを持つ外国人選手や現地での生活文化の違いに戸惑うこともありましたが、異国の地でのソフトボールは、その後の成長につながる貴重な経験となりました。慣れない環境での適応という点では多くのことを学べた大会であったため、この経験が２週間後のインカレ優勝に繋がったのだと思います。

結局、４年間で優勝できたのは、１年生の時だ

卒業式での胴上げ

生涯忘れられない絶妙なバンドに!?

けでしたが、４年間全力でやり抜いたので、最後のインカレが終わった時には、満足感でいっぱいでした。勝った時の喜びも、負けた時の悔しさも仲間と分かち合い、インカレで肩を組んで『紺碧の空』を歌った４年間は最高の青春でした。

今も社会人チームでソフトボールを続けているため、いつか、早稲田大学ソフトボール部の後輩達に勝つことが目標です。

●先生や仲間に恵まれたゼミ活動

一方、社会科学部では会社法研究のゼミに所属し、川島先生に、会社法と金融商品取引法を基礎から教えていただきました。ゼミの活動で特に思い出に残っていることは、ゼミ合宿と１年生向けの広報活動です。

ゼミ合宿では、学年対抗で会社法に関する事件の模擬裁判を行います。原告と被告に分かれて事前に前略を立て、条文や判例を用いて主張の攻防を繰り広げるのですが、普段積極的に発言しないような人でも、つい熱くなってしまうような熱戦となります。みんなで相談しながら戦略を立て、資料を作成し、勝利を目指すということを、ゼミ合宿を通して経験できたので、自分自身の成長につながるとともに、大きな思い出にもなりました。今でもゼミ合宿の熱気と楽しさは忘れることができません。

１年生向けの広報活動では、特に私の代では力を入れて川島ゼミのプロモーションを行いました。私がゼミ長を務めていたということもあり、ゼミ生からアイデアを集め、活動に協力してもらいました。SNS を使用して、ゼミの様子がわかるように写真を公開し、ポスターも漫画風に仕上げ、目を惹くようにしました。結果として、その年は

ソフトボール部の同期と記念撮影（下段の右端が筆者）

倍率３倍程度の人気ゼミになったので、マーケティングとしては成功できたと思います。ゼミでは、会社法の知識も多く学べましたが、仲間と協力し、何かを成し遂げるということについても十分に学べました。

●私にとっての社会科学部

私は大学受験の際、社会科学部が第一志望でした。というのも、オープンキャンパスで模擬講義を受けた際に、他の伝統的な学部にはない、学問の自由度の高さを感じたからです。実際に、社会科学部には学びたいことを高いレベルで自由に学べる環境があり、私は４年間で大きく成長することができました。

そして、卒業する際には、大学時代の活動が評価され、「社会科学部学生フロンティア賞」を受賞することができました。大変嬉しく思いますし、学生時代関わってくださった先生、同期、先輩後輩、さらには、学生生活をサポートしていただき、温かく迎えてくださった社学稲門会の方々には感謝の念が堪えません。

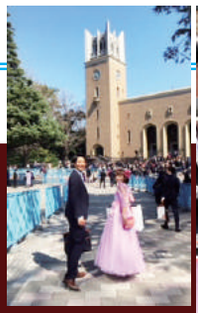
将来、私も多くの人を支えられるような存在になれるよう、社会人として精進していきたいと思います。

●増形俊輔さんプロフィール

東京都江戸川区出身。
在学中にはソフトボール部に所属し、日本一を経験。４年次には学連委員と東京都大学連盟の学生役員を務める。川島いづみゼミナール（会社法の研究）ゼミ長。
2018 年３月の卒業時に「社会科学部学生フロンティア賞」を受賞。
現在、証券会社勤務。

新社会人です！

黒川　美帆
2018年卒



卒業式は薄紫のドレスを着ました

どんな時も早稲田スピリット、自分らしさを忘れずに…

●夢だった玩具メーカーに就職

先日、家の掃除をしていたところ、あるものが出てきました。大学２年生の冬に、なぜか書いた願い事を書く短冊のようなものです。見ると「子どもが喜ぶおもちゃを作る」とピンクの短冊に青い文字で書かれていました。自分でも思わず「わあ。」と声をもらしてしまいました。

自分で言うのもかなり恥ずかしいですが、夢って本当に叶うのですね。私は今、本当に玩具メーカーで働いています。

就職活動が始まる少し前の大学２年生の冬頃、私は「玩具メーカーで働きたい。」と考え始めました。私は子供の時から絵を描いたり、工作をすることが好きでした。自分のアイディアをなんらかの形にしていくことが好きだったのだなと感じます。そして、それを家族や友人が楽しんでいるのを見るのが好きでした。

「アイディアを様々な形にしやすく、また楽しそうな会社ってどこだろう。」と考えた結果、玩具メーカーに行きつきました。

しかし、純粋におもちゃやぬいぐるみが好きで蒐集していたことのほうが玩具メーカーを志望した大きな理由のような気もします。

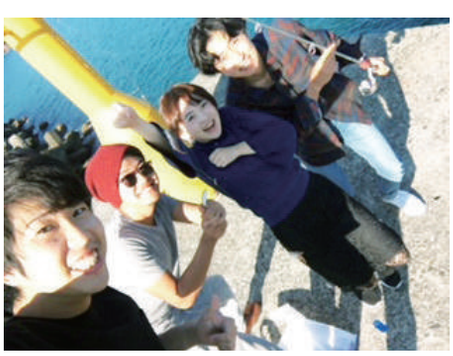
就職活動はおおむね楽しかったです。しかし、不安になる瞬間も多々ありました。「インターンシップに参加しないと、この会社は採用してくれない。」とか、「○○学部は就活に不利だ。」とか、「裏口入社で、あの会社はもう採用しないらしい。」とか、様々な噂に翻弄されました。しかし、今思えば「意味のある時間だったな。」と感じます。

そういった噂だけでなく、就職活動の在り方や今の社会の在り方に対して自分がどう感じるかということをしっかり考えることができました。どんな些細な出来事でもいいので自分がどう感じるのかということを日々問うことが大切なのだと気付かされました。会社を知ることも大切ですが、その前に自分がどんな人間なのか、「何者」なのかということを考えることのほうが大事なのだと気付かされました。

そんな苦労（？）を経て、ようやく私は第一志望の玩具メーカーから内定をいただくことができました。内定の電話を貰ったときは「生きていてよかった。」と泣いてしまいました。そんな大げさなと人事の方に笑われてしまいました。

●配属先はフィギュアなどを作る事業部へ

今私が働いている玩具メーカーでは、玩具という枠を超えて「人をワクワクさせるもの、楽しませるもの」を作っています。入浴剤や化粧品などの日用雑貨や子供向けパジャマや誕生日ケーキなど「この会社で作っていないものはないのではな



社会科学部の同期と四国一周旅行

徳島県西祖谷山村善徳のかずら橋を渡る

愛媛県伊予市の下灘駅にてたたずむ振りをする

フレッシュマンレポート

山田満ゼミナールの卒業旅行
セブ島で買い物

●黒川美帆さんプロフィール
兵庫県神戸市出身。
趣味はぬいぐるみ、入浴剤、化粧品を集めること。ペットの猫は銀ちゃん。好きな食べ物は生ハム、梅干し、タイ料理。好きな作家、林真理子。可愛いより面白いと言われたいタイプ。将来の夢はベンツの四駆に乗る素敵な旦那とタワーマンションに住むこと。

こちらはセブ島のレストラン
100 円のライチジュースが忘れられない

会社の同期たちとひまわり畑に行くも
全て枯れていたため青空をバックに

ディズニーランドにて
（中央が筆者）

いか。」と思わされるほど様々なものを作っています。

4 月からの 1 か月半の研修を経て私が配属されたのは、15 歳以上の大人をターゲットにキャラクターのフィギュアやコレクショントイを作る事業部でした。私は人生においてフィギュアを手に取ったことも見たことすらもほとんどありませんでした。さらに、ターゲットの大半が男性で「男性の気持ちが私にわかるのだろうか。」と「この事業部でやっていけるのだろうか。」とかなり不安になりました。しかし、配属から 2 か月が経ち、周りの方々の協力のおかげで楽しんで仕事をさせていただいています。

事業部が世に送り出したフィギュアたちが店頭で、どのように反響を得ているのか調査するために直接フィギュア売り場に足を運ぶことがあります。大人のお客様がフィギュアを手に取り目を輝かせていたり、お客様同士（お友達同士）でフィギュアについて熱く語り合っているのを見たとき、「こんなにも大人の目を輝かせることのできるフィギュアは本当にすごいものなのだな。」と感じさせられました。

●プロモーションに興味を、そして次の夢は…

今私は事業部でマーケティングや営業、プロモーション、企画・開発など様々な職種を研修として経験させていただいています。

私は今後、プロモーションの仕事を担当してみたいと考えています。プロモーションは、商品の良さをお客様に伝えるお仕事です。商品を企画した人と話し合い、その商品のこだわりを凝縮して、CM などの広告を作っていきます。

制作にかかわる多くの人とコミュニケーションをとり、そこで出たアイディアをまとめて一つの形にし、それをお客様に伝えることは様々な知識が必要だなと感じます。短い時間に商品の良さを要約することはとても難しいことだと思います。他にも、フィギュアの展示イベントなどを開催します。お客様の導線や展示物の配置を考えることからイベントの宣伝まで様々なことを行います。

プロモーションのお仕事はフィギュアを楽しむお客様を一番近くに感じられる仕事なのではないかと感じます。これから自分がどんな仕事をすることになるのかとても楽しみです。

どんな時も早稲田スピリットを忘れず、自分らしさを忘れず、その時その時を楽しみながら全力で仕事に取り組みたいです。

次の私の夢は、自分が関わった商品を手に取るお客様をこっそり陰から見ることです。

「社ガールの会」活動報告①

ガールズトーク全開中!!

山野 千鶴子（1984 年卒）

後列左から 2 番目が筆者

●代表を引き継いで

早稲田大学社会科学部稲門会『社ガールの会』代表を発起人の馬場孝子さんから引き継ぎました山野千鶴子です。

この会は現役女子学生はもちろんのこと、社会科学部を卒業された女性でしたらどなたでも入会できます。現在約 50 名程が会員登録をされてます。

会ではお互いの交流、情報交換という名目で楽しくガールズトークで盛り上がっています。

昨年 11 月には、社会科学部 OB のインド料理レストラン「Busy Bee（ビジービー）」（秋葉原）を使わせていただき、とても美味しいお料理とおしゃべりで楽しい時間をともに過ごしました。

また、今年に入りましてからは春夏秋冬のイベントの一貫で、組織委員会と合同で、2 月には冬のイベント『久しぶりにスケートをしてみよう』ということで、高田馬場のシチズンでアイススケートを、正に羽生選手（彼も早稲田大学）が金メダルを獲得した日に行いました。

合同参加した組織委員会のメンバーも大はしゃぎ！

その後、懇親会。15 名程の参加者は翌日に筋肉痛を久々味わった方もいらしたようですが、氷の上での滑りを堪能されてました。

そして、こちらも組織委員会と合同で、4 月には春のイベント『自然の中でフィールドアスレチックを楽しもう』ということで、平和島森の公園内のフィールドアスレチックを皆さん童心に帰って奮闘していました。

難しいスポットが目白押しにもかかわらず、怪我もなく、気持ちの良い汗を流しました。

懇親会でのビールは、また格別だったようです。

●早稲田人としてより楽しい充実した日々を

また、夏のイベントは、ビアガーデン、秋には高田馬場で卓球大会、冬は社ガール限定でのおしゃれなクリスマス会を予定しています。

「校歌」、「紺碧の空」を歌えるのは当然ですが、「早稲田の栄光♪」や「人生劇場♪』を知らない若手が多いのは寂しいです。

楽しく集まれる機会を増やし、本来の早稲田精神を刺激し合い、年齢に関係なく人生を語り合い、末長く早稲田人としてより楽しい充実した日々を送れるようにお手伝いできればと思っています。

イベント参加はもちろんのこと、ご意見ご要望がございましたら、是非よろしく御願いいたします。

●山野千鶴子さんプロフィール

出身：東京都目黒区出身
家族：夫、娘三人
血液型：B 型　星座：かに座
語学クラス：照屋佳男先生担任 I 組
サークル：早稲田大学英語会（ESS）
趣味：アルゼンチンタンゴ、居合道、ミュージカル、映画鑑賞、海外旅行
仕事：マンツーマンでの英語インストラクター
好きな言葉：Live as if you were to die tomorrow, Learn as if you were to live forever.

「社ガールの会」活動報告②

笑顔花咲く社ガールの会

高橋 恵子（1996年卒）

●サークル「思惟の森の会」の思い出

様々な人々に会いたいという思いが、私を早稲田大学に導いてくれました。両親は、私が地元に残る事を望みましたが、私の決意が固かった為、最後に折れて送り出してくれたのです。あの頃の私は、何が何でも早稲田大学に入りたいという気持ちを強く持っていました。その選択をした事を今でも心から良かったと思っています。

早稲田大学に入学してみると、多種多様なサークルからの勧誘がありました。その中で「思惟の森の会」というサークルに魅力を感じ、入会しています。「思惟の森の会」では、岩手県の田野畑村という所に、春・夏・秋の年３回合宿に行き、育林活動及びサークルの仲間や村の方達との交流を行いました。薪を使用して、ご飯を炊いたり、お風呂を沸かしたりする事は、人生で初めての経験であり、感動を覚えたものです。

また、研宿と言って、村の方がなさっているお仕事（牧場や旅館のお仕事等）を体験させてもらえる事は、貴重な経験となりました。各々が自分の意見を言い、夜遅くまでサークルの仲間と語り合った事も、忘れられない思い出です。

社会人になってからも、社会科学部稲門会に入会した事で、いろいろな方と出会う事が出来ました。合同クラス会を成功させる為に、先輩方に教えて頂きながら、自らも尽力し、一致団結から生まれる一体感を味わう事が出来た事は、心地良かったです。一つの目標に向かって皆が邁進したからこそ、やり遂げた時に得られる達成感を味わう事が出来ました。

●全ての出会いに感謝

そして、社会科学部稲門会のご縁で、「社ガールの会」と出会いました。「社ガールの会」とは、早稲田大学社会科学部出身の女子の会であり、発起人の馬場孝子さん・現代表の山野千鶴子さんを中心に、素敵な先輩方や後輩達が集う会です。これまでに数々の懇親会を開いてきました。

例えば、イタリアンのお店・蕎麦屋・インド料理のお店等に行き、親睦を深めています。また、組織委員会と合同で、スケートを一緒に滑る企画や平和島のフィールドアスレチックを楽しむ企画も立てました。参加すると、年齢がいくつになっても、童心に返る事が出来る瞬間が生まれ、自然と笑顔になります。

社ガール達と会って話をしていると、それぞれの方がご自分の人生を楽しんでおられるのだとわかり、嬉しくなります。また、生き生きと話す彼女達の顔は輝いています。自己が確立しており、自分が幸せに生きる事に対して妥協しないという姿勢を、会話の端々から感じる事が出来るという事は、「社ガールの会」に入会したからこそ味わえる醍醐味です。これからも大切な仲間と時を共有し、切磋琢磨をし、笑顔で語り合っていきたいと思っています。

私は現在、卒業後何年経っても色褪せない思い出に心が温まり、新しい出会いに感謝する日々を送っています。「社ガールの会」に興味がある方は、是非一緒にお話をしてみませんか。

●高橋恵子さんプロフィール

茨城県水戸市出身。1996年社会科学部卒業。久塚純一教授の社会福祉関連のゼミで学ぶ。趣味は、音楽鑑賞・読書・映画観賞。モットーは「人に優しく、自分に厳しく」。好きな言葉は「温厚篤実」。現在、ご高齢の方が通うデイサービスで働いています。なるべく笑顔で楽しく過ごして頂けるように心掛け、尽力しています。

寄稿 被災地の労働歌（4年間の記録）

覚悟を決めて福島へ

都出て　心定めし　白河の
原子の塵を　払い清めん

永田 正行（1984年卒）

白河にて

●私を待っていた被災地の業務

もう４年前の話になりますが、大阪天満のオフィスにいた私に一通の辞令が届きました。「福島県の除染事業従事を命ず」――会社員の宿命ですね。当時は震災復旧と除染事業が真っ盛り。ゼネコンの経営資源の大半が注ぎ込まれました。関西から土木作業員とヤクザが消えてしまったなどと噂していました。

赴任地は白河の関を臨む西郷（にしごう）村。自治体発注の住宅除染です。正直、不安でした。物造りをしない工事、被災地、放射線の影響など全てが未経験です。訳が分からないまま覚悟だけ決めたのを思い出します。あの時に詠んだのが、この歌です。

都出て　心定めし　白河の
原子の塵を　払い清めん

事務系社員は技術系社員のような工事の指揮はとりません。大抵は事務長の立場で資材や外注の発注と支払業務、労務管理、関係官庁や近隣住民への対応が職務となります。一口に言えば、購買、労務、経理、総務。

しかし、被災地で待っていたのは住宅除染の渉外業務でした。13年の営業キャリアがあったので、交渉の経験が買われたのかもしれません。被ばくした一軒一軒にアポイントを取りながら訪問します。そして、庭や家屋の汚染状況を一通り説明し、どのように除染していくのか作業方法を打合せます。屋根や樋、外壁、塀は高圧水で洗い流し（汚染水は全て回収）、庭木や草花は剪定伐採します。土や砂利等は放射線数値が基準値に達するまで表面を削り取り新しく入れ替えます。これが大まかな住宅除染です。

ところで、放射性物質のセシウムは目に見えません。もちろん匂いも何も分からない厄介なものです。これが絶えず壊変を繰り返しβ線とγ線を撒き散らし、人体のDNAに傷をつけるのです。また、セシウムは自然界に現れると瞬時に土と結合する性質があります。つまり、セシウム＝土埃なのです。ざっくりと言えば、除染とは、この土埃を掻き集め人に影響しない場所に遮蔽する事なのです。

当たり前かもしれませんが、被災地の方たちは放射線の事を本当によく勉強しています。ただ、向き合い方、感じ方、怒りの度合いは様々です。完璧な除染を求める人もいれば、庭木を大切にしているから庭に手をつけないで欲しい人などもいます。そのため、一軒一軒の除染方法はとても綿密な打合せが必要でした。この業務での対象家屋は学校や工場も含め約600軒ありました。

●帰還困難区域へ

黙々と渉外業務を続ける私に、また辞令が届きます。次の赴任地は帰還困難区域の葛尾（かつらお）村でした。国が発注の大規模除染。ピーク時は日々3000人の作業員を投入し、120人の現場監督を配置しました。村を丸ごと除染する一大プロジェクトです。この時の私の職務の

フレコン仮置場パトロール中

安全教育講義中

鎌田総長と

葛尾の 1000 人の朝礼風景

一つが全従事者の入域管理でした。

関越えて　恵みの森の　葛尾の
除染に暮れる　奥の細道

この頃に詠んだ歌です。

白河の関を越え葛尾村に入れば、全住民が避難していました。内閣府がゲートを設置し許可された者のみが入域できます。事務所では水道水が飲めず、寝泊まり禁止。郵便も届きません。そして、この制限区域で働く為には多くの手続きが必要になります。

まず、放射線管理手帳の申請、電離則に基づく健康診断、WBC（ホールボディカウンター）という内部被ばく状態の検査。除染特別教育は 5 時間 30 分の法定教育。環境省へ身分証と一時立入許可の申請。さらに、工事の新規入場申請や安全教育が加わります。仕上げに汚染レベルに合わせた防護服を身に着け、外部被ばくを測るガラスバッチを支給され入域します。人口より多い作業員が乗り込み、村を丸洗いしました。

ここでの業務は、全ての物量が桁違い。目が回るような 2 年間を過ごしました。その甲斐あって、2016 年に葛尾村に帰還宣言が出されたのです。

風渡る　稲穂の波を　ご覧あれ
除染の里の　石のみ仏

この時に詠んだ歌です。

●中間貯蔵工事へ

葛尾村の本格除染が終わる頃、また次の辞令が届きます。福島第一原発の足元、福島県浜通り地方における中間貯蔵工事です。

時は春　浜の現場に　いざ行かん
除染に暮れし　この里越えて

2017 年 4 月に着任しました。現在もこの現場に従事しています。この仕事も工事と言うより輸送がメインです。

福島県の各地で除染が行われた結果、放射性廃棄物が入った膨大な量のフレコンが県内各地に仮置きされました。中身は汚染された土砂や枝木、舗装ガラ。中身にもよりますが、凡そ 1 袋が 800 kgの重量。

この輸送業務を簡単に説明すれば、これらを重機で揚重し 10 t ダンプで搬送します。県内各地の 10 万袋を大熊町の保管場に集積させるのです。単なる輸送と思われるかもしれませんが、膨大な物量の危険物です。安全と安心が求められ様々な制約を受けます。世界でも稀な仕事です。

フレコンは厳格に放射線測定され一袋ごとに管理されます。ダンプはドラレコや GPS を装備し全車両がシステムにより運行管理されています。輸送ルートは勿論、走行時間、休憩場所、道路渋滞、咄嗟のトラブル等にも日々対応しています。

●まとめに代えて

お陰様で、私も放射線関係業務のベテランになってきました。現在の主な職務は労務管理と教育です。安全教育や被ばく低減教育等を行います。福島の復興事業は、まだまだ続きます。

我々の手で安全を確保した自負はありますが、安心までは届いていません。また、いつの日か辞令が来て、この地を離れるのでしょうが、福島をずっと見守っていたいと思います。

まとめに代えて、最近詠んだ歌を並べ筆を擱きたく思います。最後まで拙文お読み頂き有難うございました。

作業員にお守りを持てと訓示せし。目に見えぬ放射線と闘う由に、目に見えぬ者の力を借りよと。

お守りを　胸に押し当て　訓示せし
見えぬセシウム　制限区域

現場宿舎の朝の風景を詠める。

復興の　現場宿舎や　喧騒と
男臭さが　立ち込めて朝

７年を経て再開せし夜ノ森の桜祭りの活気を詠める。

復興も　支援も絆も　何のその
桜の力　ただ咲き誇る

スーパームーンを制限区域で眺めし時の歌。

神ながら　守り給へと　仰ぎ見む
無人の街を　つつむ月影

●永田正行さんプロフィール

①出身地：東京都大田区蒲田　②出身高：都立九段高校
③卒年:1984 年卒　④所属ゼミ:長谷川茂ゼミ（会計学）
⑤所属サークル：近代会計学会　⑥勤務先：西松建設㈱
⑦校友会代議員（愛知県支部監事）
⑧所属稲門会：社学稲門会・1984 年次稲門会
名古屋稲門クラブ・白河稲門会・郡山稲門会
⑨趣味：水泳、フェイスブック、下手な短歌

寄稿 歴史小説家 伊東潤さんといく小田原歴史散策

伊東潤さんに魅了された小田原散策を満喫

伊東 相一（1974年卒）

●伊東潤さんの『黎明に起つ』に因んで小田原へ

4/14（土）15（日）、伊東潤さんのご案内で小田原歴史散策＆箱根周遊の１泊２日の楽しい旅行をしました。

伊東さんはご存知のように、『国を蹴った男』『峠越え』『黎明に起つ』等多数の歴史小説を書かれている作家で、『国を蹴った男』で第34回吉川英治文学新人賞、『峠越え』で第20回中山義秀文学賞受賞、これまでに５回直木賞にノミネートされ、特に『黎明に起つ』では、戦国の黎明期を駆け抜けた伊勢新九郎、若き日の北条早雲の志を描いた作品で、もっとも小田原に詳しく、３カ月に一冊本を出版されている精力的なベストセラー作家です。

前年の12月に伊東さんが横浜中華街での忘年会に出席され、旅行の話となった時に、春にでも小田原を案内したいと提案されました。小田原に行くなら、箱根に宿泊するのが良いと思い、強羅つつじ荘を調べましたら、4/14（土）はまだ空いていましたので、３部屋（１部屋５人）予約しました。つつじ荘はリーズナブルで質の良いサービスで、源泉を使った白濁湯でかけ流しです。新宿区民にも人気のある新宿区保養所（旅館）で、社学メンバーと何回か利用したことがありました。

4/14（土）ということで、阿川会長から伊東さんに連絡してもらったところ、快く快諾を得ました。

最初は１泊２日で参加者を募集しましたが、宿泊は厳しいが日帰りなら参加できるという人もいましたので、日帰り旅行も含め計画しました。宿泊者10名、日帰り５名、計15名になりました。

14（土）は小田原駅に10:30集合で、小田原散策後、腹の空く頃13：00位から昼食をということで、伊東さんからは「RYO（リョウ）」という店を紹介してもらいました。

予約の連絡をしましたが、昼営業時間が11：00～14：00いいうことで厳しく、次に「北条水軍」を紹介され、昼食メニューの山中城という「地元取り立て３種丼」を注文して13：00から予約しました。

そんな訳で、「歴史小説家伊東潤さんといく小田原歴史散策の旅」の参加者、スケジュールも決まり、待

日帰り、宿泊組ともに記念撮影

伊東潤さんのガイドは完璧

「大堀切」を散策中

昼食は「北条水軍」にて

盛り上がりを見せた夜の宴会

ち合わせ時間、場所、昼食処が決定し、翌日の箱根周遊も決まりました。

●小田原城を抜けて「大堀切」へ

14（土）は、小田原駅構内にある小田原提灯の下で10時30分に待ち合わせました。

駅前に着くと、小田原の街が整備されて様相が一変、新しくなっているのには驚きました。その新しくなった街中を小田原城に向かいました。小田原歴史散策の始まりです。

小田原の歴史を知るには、「大堀切」を散策するのが一番お勧めということで、小田原城の説明を受けながら、小田原城を通り抜けて大堀切あたりを2時間半、約1万3000歩の新緑の木々に囲まれて山中の散策を行いました。

「大堀切」は、小田原城を豊臣勢から死守する北条勢の対応の「土塁築」跡地が数カ所あり、伊東さんから専門的視点での歴史的な背景、説明を頂き、歴史探訪は初体験という参加者14名で、その「土塁築」を見て、その当時の戦いの壮絶な跡を想像することができました。この「大堀切」のコースはかつて女優の高島礼子さんと一緒にテレビロケで散策した思い出のコースというお話もありました。

また、豊臣勢が北条勢を攻めるために築いたという拠点を山頂から眺望しました。山頂からは相模湾から箱根ターンパイクまで一望できる景色の良い所で、小田原の地形が一目で感じられる場所でした。

昼食は「北条水軍」で、予約しておいた簡単なコース料理と疲れを癒す美味しい魚とビール、地酒、山中城と称す「地元取り立て3種丼」を交え、いろいろな話、感想などが進みました。

参加者からは、小田原城周辺一周山中を散策して、歴史跡を見て、感動したが久々に良く歩いたという感想があがりました。

伊東さんからは小田原市が行っている北条早雲ゆかりの祭り（5月）には、毎年市から招待があり、早雲の姿で練り歩いているお話を聞きしました。

●「伊東潤さんといく小田原歴史散策の旅」参加者

伊東潤、阿川功、伊東相一、細井常男、藤井貞雄、矢島健生、副島亮、幸田雅夫、馬場孝子、甘利知子、中本零時、夏越英成、佐藤和美、石井伸二、荒川茂夫

小田原城をバックに記念撮影

日帰り組５名とは、15 時頃に小田原駅で別れ、宿泊組 10 名は箱根登山電車で強羅駅に行き、強羅からタクシーで宿泊の「つつじ荘」に到着、源泉かけ流し白濁の温泉を楽しみ、18：00 からの夜の宴では特別料理も追加し、ビール、箱根の地酒、焼酎を注文し美味しい夕食を食べながら、小田原散策の感想、明日のコース等を話し合いました。

伊東さんからは佐賀県から依頼されて、来年大隈重信の本を出版するので、その準備に取り掛かっているとのマル秘話も聞きました。

その後、カラオケ会場を貸し切り、カラオケ全開、伊東さんの多彩芸も楽しみました。

●強風で箱根周遊を諦め小田原城天守閣見学

翌日 15 日（日）は箱根周遊ロープウェイで大涌谷、芦ノ湖方面へ、小田急山のホテルで、つつじを鑑賞しながら優雅な昼食をすることになっていましたが、生憎の雨、強風の為、ロープウェイ、海賊船運休で、計画を変更し、伊東さんのご提案で前日、小田原城天守閣を見学しなかったので小田原に戻ることにしました。

小田原では、朝の豪雨と強風が嘘のように天気は快晴になっていました。

伊東さんからの詳しい城内のご案内、甲冑、刀、鉄砲等の展示品に対する説明は前日の土塁築跡地での壮絶な戦いを思い起こさせてくれました。

伊東コンビ（右：筆者）のツーショット

一人ずつ小田原城を背景に伊東さんと記念写真を撮り、喜び楽しい小田原城の思い出を作りました。

昼食は、伊東さんの当初お勧めの「RYO」に行き、おすすめの「まかない丼」を全員で注文し、地元取り立て刺身盛り合わせ、名物生かまぼこをつまみに美酒を楽しみました。

帰りの電車の時間がまだ 1 時間ほどあるので、甘党の人は、これまた伊東さんおすすめの「甘味ういろう」で時間をつぶし、おみやげ等を買い求めました。

15 時に小田原駅解散となりました。

14（土）、15（日）と参加者全員、伊東さんの魅力を楽しませて頂き、歴史小説家の情熱、好奇心及びマルチ知識と人なりに感銘を受けたと思います。伊東さんの歩き振りを見て健脚にも感心しました。これからも良きお付き合いをさせて頂きたいと思います。

寄稿 早稲田駅伝を振り返る

初参加で稲門会部門３位の快挙！「僕たちと一緒に参加しませんか？」

吉田 直人（1988 年卒）

●大会の１か月前にチーム結成とは!?

2018 年の早稲田駅伝が行われた 1 月 20 日は小雨がちらつく曇り空。真冬ではあったが無風のため寒すぎず、駅伝には最高の天気であった。我がチームメンバーは以下の５名。第一走者：吉田直人（飲むために走る男）、第二走者：新谷俊樹（花の２区。唯一の実力者）、第三走者:甘利知子（社ガール選抜エリート）、第四走者：副島亮（やるときはやる革靴ランナー）、最終走者：西宮正明（熱血系ジェントルマン）。

今年の早稲田駅伝は 2017 年 7 月 21 日からエントリー開始されたが、我がチームが結成されたのは、なんと 12 月に入ってから。社学稲門会メルマガ等で参加を呼びかけるも４人まで揃うが、最後の一人がなかなか見つからない。

なかばあきらめかけた頃、灯台下暗しとは良く言ったもので、社ガールの甘利さんに目がとまる。少し強引ぎみに勧誘して何とか参加してもらえることになった。応募締切まであと数日という 12 月 7 日に即席チームがやっと出来上がる。ありがとう甘利さん。

などと喜ぶのも束の間、大会は１か月後に迫っている。チーム結成＝練習開始、という状況なのだから、早稲田の襷を最終ランナーまでつなげきりゴールできるのか、かなり不安なスタートだ。

ところが、大会まで時間が残されていないというのに、こともあろうか、練習そっちのけでユニフォームづくりに没頭してしまう。「走りより見た目。駅伝は

左より夏越、副島、甘利、西宮、新谷、筆者

見た目の一体感が重要だよね」などと誰かが笑って言うものだから、困ったものだ。デザインはN氏が積極的に案を出してくれた。いろいろと案はでたが最終的には陸上部と同じエンジ色に陸上部のWロゴで行くことに決まった。

オリジナルTシャツを作る機会などそうそう無い。駅伝メンバーだけでなく共同購入にして仲間と一緒に楽しめないものか、と話し合っているとタイミングよく忘年会があった。そこでN氏がオリジナルTシャツのプレゼンをして賛同を得ることに成功。このオリジナルTシャツは私たちチームメンバーにはユニフォームだが、稲門会の皆さんには応援シャツとして合計41枚も売れた。このとき私はインフルエンザで倒れ何も協力できなかった。41枚も売れたと聞いてN氏に感謝した。

Tシャツが出来上がると「W」がでかすぎる、という声があがった。これほど大きな「W」を見たことが無い、かっこ悪いという意見だ。しかしこの大きな「W」は、早稲田一色に染まる会場でも目立ち、私たち走者にはすぐに次の走者を見つけられる、という利点があった。不細工に大きい「W」だが、その不細工さが私には愛(あい)らしく何ともかわいい。

●練習嫌いの即席チームが変貌!?

さて、練習嫌いのこのチームも年が明けるとさすがに焦り出した。1月5日神田駅集合。皇居1周5キロを全員で走った。仲良く並んで走ろうと最初は言っていたのに、N氏が抜けがけに走りだした。こういう困った人はどこにでもいる。「しょうがない、つきあって走るか」。距離は開く一方だが、ともかく追いかけることにした。おかげで自分も引き上げられて好タイムで5キロを完走することができた。はからずしもN氏に感謝した。

練習後の酒宴

皇居ラン練習の記念に一枚（左より甘利、新谷、筆者、西宮、副島）

練習後の反省会。走った後のお酒は格別にうまい。ということで、私はついつい飲みすぎて記憶をなくしてしまう。あとから聞けば、私が日本酒を次々に追加するものだから予算よりだいぶ高くついたとのこと。チームの皆さんには負担を強いて申し訳ございませんでした。今度は飲み放題のお店にしましょうね。

練習嫌いの即席チームも、共同練習した日を境に変貌した。N氏はトレッドミルで走った記録をSNSに毎回投稿するようになった。T嬢は一人で皇居ランに行くようになった。A氏は転倒するほど過酷なメニューを自分に課して実際に転んでケガをした。F氏は走ることが日課になった。接待は走れない理由にはならないと、接待の日は飲み屋から自宅まで走る。軽く走るのは酔い覚ましにちょうどいい、と豪語した。

●こんなに高揚したのは久しぶり

さて、話は1月20日に戻る。僕がスタートラインに立ったころ、爆風スランプのサンプラザ中野くんはステージに上がった。スタートの号砲と同時に代表曲「Runner」を歌って参加者の士気を盛り上げてくれた。

酒宴後にたい焼き食べる
（へべレケ状態の筆者。たい焼き屋に寄ったことすら覚えていない。）

爆風スランプ（サンプラザ中野くん）が応援にきてくれました

スタート直後。「Runner」を聞きながら気持ちよく走る筆者

初参加の私は、もののみごとにこの演出にのまれてしまい、後半ひどい目に合うことになるのだが、その時は「はしる～♪　はしる～♪」の曲にのり気持ちよくスピードを上げて駆けていた。

スタンドから聞こえてくる応援も心地よかった。こんなに高揚したのは久しぶりだ。同じような気持ちになったのはいつだろうか。そうだ、早稲田祭のときに同じような高揚感を味わったような気がする。シチュエーションはまったく違うけれど確かにこんな高揚感だった。楽しかったなぁあの頃、なんてことを考えながら気持ちよく走れるのはエンドルフィンが出ている証拠だ。後半はバテバテになってしまうが、無事に第二走者に襷を渡すことができた。

結果は、我がチームは 20 キロを 1 時間 42 分 47 秒で完走。初参加でありながら、稲門会部門 3 位という輝かしい戦績を納めることができた。これもひとえに夢の島競技場までわざわざ応援に来てくださった皆さんのお力添えによるところが大きい。

●応援に来られた方々

中本零時さん、米津昭さん、伏見英敏さん、夏越英成さん、和泉明宏さん、後藤秀一さん、小倉豪太郎さん、副島夫人と御令嬢。

応援に来てくださった皆さんにチームを代表して御礼申し上げます。ありがとうございました。

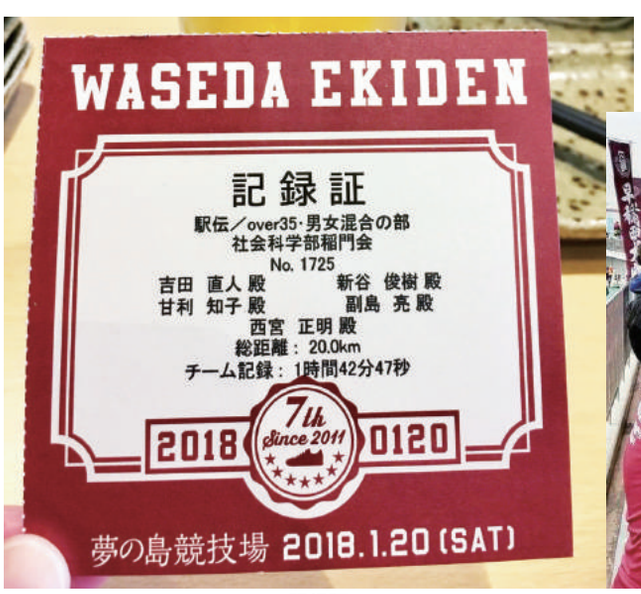
最後に、2019 年早稲田駅伝参加者募集のご案内です。地方からの参加者も含めて、社学稲門会から 4 チームエントリーしたいと考えております。

ランニングは、いつでもできて、お金もかからず、美容と健康にいいものです。駅伝のように一緒に走る仲間がいると励みがあって楽しいです。私たちと一緒に来年、早稲田駅伝に参加しませんか。

走距離は、受け持ち区間で違います。早稲田駅伝は 1.25 ㎞、3.75 ㎞× 2、5 ㎞、6.25 ㎞の 5 区間があります。初めての方も短い距離がありますので、気軽に参加できます。

一緒に走りたいと思った方は、社学ホームページからお問い合わせてください。

ご連絡お待ちしております。



記録証

夏越氏リードのもと「紺碧の空」を高らかに歌う

社会科学部稲門会「総会」「講演会」報告

社会科学部稲門会事務局長
佐藤 和美

～面白くなければ社学稲門会ではない～〈三位一体〉に願いを込めて

●笹原宏之先生による第一回特別セミナー

2018年8月29日（水）午後8時30分。早稲田大学14号館の801会議室は、笑顔に溢れた40余人の参加者の拍手喝采に包まれました。

社会科学総合学術院・笹原宏之先生の特別セミナー『漢字と日本人』が終わった瞬間です。

「漢字がこれほどに面白いものとは思わなかった。」「中国と日本の漢字との向き合いの違いに驚いた。」「日本人が漢字にたくさんの思いを託して来たことを知って感動した。」「ことばや文字は生き物だと思っていたが、『生きているのはことばや文字ではなく、私たち人間なんですね。私たち人間がよりよく生きていく為に、ことばや文字を上手に育てましょう。』という笹原先生の結びのメッセージが心に残った。」

熱い思いが冷めやらないのでしょう。参加者の多くは、セミナー終了後も先生のスピーチから得た思いや感想をお互いに交わし合い、頷きあっていました。

私たち社会科学部稲門会（以下、社学稲門会）は、2018年度の活動として、年に2～3回、月に一度の定例会に代えて社会科学部の先生方を中心にした特別セミナーを開催することにしました。そして、第一回の特別セミナーを笹原先生にお願いし、8月29日(水)に学部の会議室をお借りして実施したのです。多くの方々の参加を頂き、第一回特別セミナーは成功裡に終わることが出来ました。

●〈三位一体〉による50周年記念事業

さて、話は今から5年前の2013年に遡ります。

社会科学部の卒業生による組織が「二水会」から「社会科学部稲門会」に発展的に改組し、第一回目の総会を迎えた時のことです。

私たちは、学部の名前を冠した学部公認の稲門会であることの誇りを胸に、名前にふさわしい活動を続けて行くこと、そして私たちが活動の主軸として大切にしている、社会科学部の「教職員（OB／OGを含む）」「在学生」「卒業生」による〈三位一体〉を、具体的な活動を通じて具現化することを改めて確認し合いました。折しも、2016年には学部創設50周年というメモリアル・イヤーが控えていました。私たちは、記念すべき学部の創設50周年を学部と共に祝い、更なる発展の起爆剤とすべく〈三位一体〉による50周年記念事業を立ち上げることにしたのです。

2016年10月22日（土）。私たち社学稲門会が起案し、学部の教職員、在学生のみなさんの力強いご支援を頂きながら共に推進した、3つの記念事業が開催されました。

早稲田の広いキャンパスをガイドと共に巡りながら、その新旧を感じ取って頂く『特別キャンパスツアー〈早稲田の社学の、いまとむかしを歩く〉』。

難波田春夫先生から田村正勝先生へと受け継がれ、社会科学部を代表する講義として、今や伝説となっている『社会科学方法論』を、田村先生（現早稲田大学名誉教授）に特別版として講演頂いた『社会科学方法論　最終回の講義』。

そして、社会科学部の卒業生で、現在各界で大活躍をされている上野金太郎さん（実業界）、永田晃也さん（大学教授）、筒井真理子さん（女優）、阿川功さん（実業界、社学稲門会会長）の4氏をゲストに、津田大介さん（ジャーナリスト）の名ファシリテートで綴った50周年記念シンポジウム『わたしと社学、次世代への提言』。

会場となった井深大記念ホールは、共に500人余の参加者でぎっしりと埋め尽くされました。

そして、翌10月23日(日)には、学部主催による『社会科学部創設50周年記念式典』が、井深大記念ホールで、500人を超える多くの参加者を得て盛大に開催されました。

記念式典では、私たちが二水会時代以来、会の中心的な活動として位置づけ、〈三位一体〉で継続してきた『卒業生奨学金』の授与式を執り行って頂くなど、２日間に渡って開催された社会科学部創設 50 周年記念事業は、名実共に〈三位一体〉を具現化し象徴する事業となったのです。

●第五回総会では歴史作家・伊東潤氏の講演を

社会科学部創設 50 周年イヤーの翌年、2017 年。私たちは、ポスト 50 周年の活動目標を、様々な機会を通じて活発に議論しました。同時に「社学稲門会がどのような会であって欲しいか」について、会員の方々へのヒアリングも行いました。そうしたプロセスを通じて最大公約数的に見えてきたのが、「会員相互の親睦の場」に加えて「会員が相互に啓発し合える場」であって欲しいという事でした。

「楽しい飲み会も良いけれど、それだけではなく、お互いの交流を通じて心地よい刺激を得たい。」というのが会員の方々に共通した思いだったのです。

会員の方々のインサイトに改めて気づきを得た私たちは、早速、2017 年の検討課題の中に「会員相互の親睦と相互啓発の推進」を織り込み、その実現に向けて動き出しました。

そして、これまでの様々な経験をもとに、６月３日（土）に早稲田大学 14 号館 801 会議室で開催する『第５回総会』の場で、具体的な試みを行うことにしたのです。

それが、社会科学部の卒業生であり、歴史作家として大活躍をされている伊東潤さんによる記念講演です。「強みを築いて競争に勝とう」と題した講演は、戦国時代の武将たちの強みと弱みを、伊東さん独自の視点で分析し引用しながら、現代に生きる私たちへの教訓として提示された説得力に富んだものでした。

会場を埋めた大勢の参加者から、惜しみない拍手が続いたのは言うまでもありません。

伊東潤さんには、同年 10 月 15 日（日）に 14 号館 801 会議室で開催された『第 24 回社会科学部合同クラス会』でも、６月の記念講演の続編とも言うべき「歴史から学ぶ七つの教訓」と題した記念講演を行って頂きました。

伊東潤さんによる記念講演の反響は、翌 2018 年に開催された『第６回総会』への牽引車となりました。

●第六回総会では劉傑先生による記念講演を

薫風そよぐ５月 12 日（土）、早稲田奉仕園リバティホールにて、社学稲門会の『第６回総会』が、早稲田大学の畑惠子理事、山田満社会科学総合学術院長、福田光洋校友会常任幹事をはじめとする来賓と、50 余名の会員の出席のもと開催されました。

社学稲門会・阿川会長のご挨拶に続いて、来賓の方々からのご挨拶、そして会計報告や事業報告などが式次第に沿って行われた後、第二部として、社会科学総合学術院の劉傑先生による記念講演が開かれました。タイトルは「習近平時代の中国と日中関係〜知のプラットフォームを目指して〜」。

折しも中国の一挙一動が、ひときわ国際的な注目を浴びていることもあり、参加者は、劉先生のお話を一言も聞き漏らすまいと、真剣な眼差しで耳を傾けておられました。

万雷の拍手――。「とても分かりやすいお話で、頭の中が整理できた。」「今日のお話が予備知識となって、テレビや新聞の報道がより深く理解できそう。」など、劉先生のお話はたいへんな評判となりました。

●〈三位一体〉に願いを込めて

社会科学部には、個性に満ちた大勢の素晴らしい教職員の方々がおられます。大勢の在学生が、日々研鑽に励んでいます。そして、社会の第一線で活躍している大勢の卒業生がおられます。まさに〈人財〉の宝庫なのです。

そうした人たちが何かのご縁で共に集い、刺激し合い、紡ぎ合う。そして、更なる新しい世界を生み出していく……。〈三位一体〉とは、そうした連鎖を生み出す限りない可能性なのかもしれません。

社学稲門会は、そうした可能性を磨き上げ、大きく膨らませるプラットホームでありたいと思っています。私たちの会には、「楽しくなければ社学稲門会ではない。」というスローガンがあります。来る 2019 年は、私たちの会が前身の二水会から通算して創設 25 周年を迎えます。

この素晴らしい機会をバネに、私たち社学稲門会は、共に集う仲間たちが、心底「楽しい」と実感できる会を目指して、更なる発展を続けていきたいと思います。

大勢のみなさまのご参加を、お力添えを、心からお願い申し上げます。

組織委員会主催「遠足」レポート

組織委員会所属
井上　功

組織委員会では、会員間の親睦と新会員の獲得を目的に楽しくてお金のかからない遠足を３カ月に１度の予定で実施しています。

組織委員会では、2016 年から馬場孝子委員長の下、会員間の親睦と新会員の獲得を目的に「遠足」を行っています。

●第１回／2016年１月14日（土）

「月こそ替われ殿の命日、忠臣蔵をめぐる旅」

（行程） JR 両国駅から徒歩で回向院に向かい「鼠小僧次郎吉の墓」を見学後、本所に移動し吉良邸を見学。JR 飯田橋駅を経て南北線六本木一丁目駅で下車。大石内蔵助が浅野匠内匠頭の奥方「瑤泉院」と最後の別れを行った「南部坂」の碑を見学した後、ビートたけし等芸能人もよく食べにくる赤坂「津つ井」で昼食を堪能。六本木一丁目駅から白金高輪駅で下車して浅野家菩提寺の「泉岳寺」に行く前に「東京三大豆大福」の「松島屋」で豆大福を GET。いよいよ「泉岳寺」へ。四十七士の墓参り、義士記念館を見学して感動！　いざ早稲田水稲荷神社へ。浪士のヒーロー「堀部安兵衛」の碑を見学後、高田馬場「清龍」で打ち上げ！

赤坂「津つ井」にて昼食

東京三大豆大福「松島屋」

高輪「泉岳寺」にて

（旅のひとこと）

豆大福の松島屋では、朝早く行ったにもかかわらず、名物の豆大福は売り切れとのこと。馬場委員長が、それにもめげず店と交渉したところ、偶然にも豆大福にキャンセルが出たとの事。馬場委員長の押しの強さと偶然が重なり、全員分の豆大福をゲット！　とてもおいしかった。参加人数約 15 名。

●第２回目／2017年８月19日（土）

「組織委員会発足、タイ展見学と打ち上げ」

（行程） 東京国立博物館にて「タイ展」を鑑賞。いろいろな仏教美術、アジア古典美術に触れ、教養を高めることも社学稲門会ならでは。終了後、上野御徒町の「一休」にて打ち上げ。参加人数約 20 名。

老舗菓匠「明美」にて記念撮影

●第３回目／2017年10月７日(土)

「秋の遠足、都電の旅」

（行程）小雨そぼ降る中、荒川遊園に集合。観覧車・メリーゴーランドなどを満喫後、三ノ輪に移動。「土手の伊勢屋」で昼食を摂る予定が、行列のため昼食は三々五々。吉原探索後、「あしたのジョー」の街をぶらぶらし、小塚原の刑場、回向院を巡り、「梶原」でお土産の「明美都電最中」を買って、王子の渋沢資料館を見学。最後は、早稲田の大隈商店街「上海亭」で打ち上げ。皆さん童心に還ったように無邪気な遠足でした。参加者 20 人超。

（旅のひとこと）

当初は、吉原を巡る予定はなかったが、昨今吉原ツアーが人気だとか。王子の３博物館を巡る予定をやめて急きょ吉原へ。「見返り柳」を見物したり、吉原神社を拝観したり。参加者の中には、急に行方不明になる者も？

●第４回目／2017年12月16日(土)

「南雲副事務局長主催、鶴見・横浜散策」

（行程）鶴見の曹洞宗総本山総持寺の拝観。内部見学の後、石原裕次郎氏墓参。花月園前より京急横浜へ。シーバスに乗って赤レンガ倉庫に移動し、なんとタイムリーにも「北朝鮮工作船博物館」を見学しました。その後、忘年会へ。参加者 15 名ほど。

横浜散策にて記念撮影

●第５回目／2018年４月１日(日)

「知っているようで案外知らない母校の庭“早稲田探訪・春の遠足”」

（行程）最近開館した漱石山房記念館に集合し、見学後、早稲田さくら祭りでビールを飲みながら焼きそばなどを食べて休憩。すでに葉桜になってしまった桜並木を眺めながら肥後細川庭園を散策。椿山荘を裏から入って春を満喫。椿山荘から日本のカトリック総本山で、吉田茂首相の国葬を行った「東京カテドラル関口教会」で、本堂の中、ルルドのマリアを拝観。村上春樹が寮生活をしていた近隣の和敬塾を横目に永青文庫で、中国古代の陶磁器等を見学して、村上春樹がノーベル文学賞を取ればノーベルロードになるだろう「胸突坂」を下り、「関口芭蕉庵」を見学。宴会まで時間があったので開館したての「早稲田歴史館」で早稲田クイズをみんなで解きました。終了は高田馬場清龍で打ち上げ。参加者 20 名ほど。

関口の「芭蕉庵」にて記念撮影

このように組織委員会では、楽しくてお金のかからない遠足を３カ月に１度の予定で実施してまいります。会員の皆様の多数のご参加をお待ちしています。

●井上　功さんプロフィール

1960 年、早稲田に生まれる。祖父母が経営する麻雀「ジャスミン」（昭和 62 年まで経営）の離れで高校時代まで過ごし、1980 年、社会科学部入学。妻・明美とは田村正勝ゼミ、ラグビーサークルで知り合い結婚。岳父は政経・法、弟は教育、長女は商・商研、長男は政経と早稲田マニア。現在は 14 号館を拝める都電早稲田１分のマンションに 2000 年から居住。社学研５年在籍、中退。現在は日本経済新聞社から転籍になり、BS ジャパン勤務。

社会科学部稲門会主催

「大・同窓会&奨学金授与式」のご案内

早稲田大学校友会最大の催し「稲門祭」の前日（10 月 20 日）に、社会科学部ゆかりの旧友、恩師が一堂に会する社会科学部「大・同窓会」を開催します。ホームカミングデー該当年次の方々だけでなく、全ての年次の皆様、（現・旧）教職員の皆様の大同窓会です。皆様を心より歓迎申し上げます。

同会開催に合わせ、2018 年度社会科学部奨学生に採用された学部生 4 名への「奨学金授与式」を執り行います。お誘いあわせの上、ぜひご参加ください。

【ホームカミングデー該当年次】

〈卒業後 50 年目〉1969 年次（昭和 44 年卒業）の方
〈卒業後 45 年目〉1974 年次（昭和 49 年卒業）の方
〈卒業後 35 年目〉1984 年次（昭和 59 年卒業）の方
〈卒業後 25 年目〉1994 年次（平成 6 年卒業）の方
〈卒業後 15 年目〉2004 年次（平成 16 年卒業）の方

※地方から参加する方のお声を反映して、本年度は稲門祭の前日の開催としました。

●日時：2018 年 10 月 20 日（土）午後 4 時〜午後 7 時
●会場：早稲田大隈会館内「楠亭（なんてい）」　新宿区西早稲田 1-6-1
●会費：7,000 円（10 月 13 日までに事前 Web 申し込みの場合は 6,500 円）

※事前申し込み、式次第など詳細についてはウェブサイトにてご案内いたします。
こちらの URL からお入りください⇒ http://syagakutomonkai.com/

●お問い合わせ先：event@syagakutomonkai.com

2017 年度奨学金授与式

2017 年合同クラス会「紺碧の空」

2017 年合同クラス会集合写真

応援部・櫻井康裕さん（2018 年卒）の華麗なるリード

2018年稲門祭「記念写真コーナー」運営スタッフ大募集

社会科学部稲門会は、稲門祭の名物ともいえる存在となった「記念写真コーナー」を今年も出店します。

「記念写真コーナー」では、式典に参列した校友向けに大隈講堂をバックに思い出の写真を撮影するサービスを提供しており、毎年ご好評を頂いています。今年も大学正門近くの最高の場所にコーナーを構えることができました。

「記念写真コーナー」の収益金は奨学基金に寄付しています。

この「記念写真コーナー」の運営には、写真撮影スタッフ、プリントアウトスタッフ、会計スタッフ、交代スタッフなど最低 15 名のスタッフが必要です。

青春時代を過ごした思い出の早稲田キャンパスで、校友と学生のため、一緒に汗を流しませんか。

力をあわせて和気あいあいとしたボランティア活動はとても楽しく、終了後のビールは最高です。

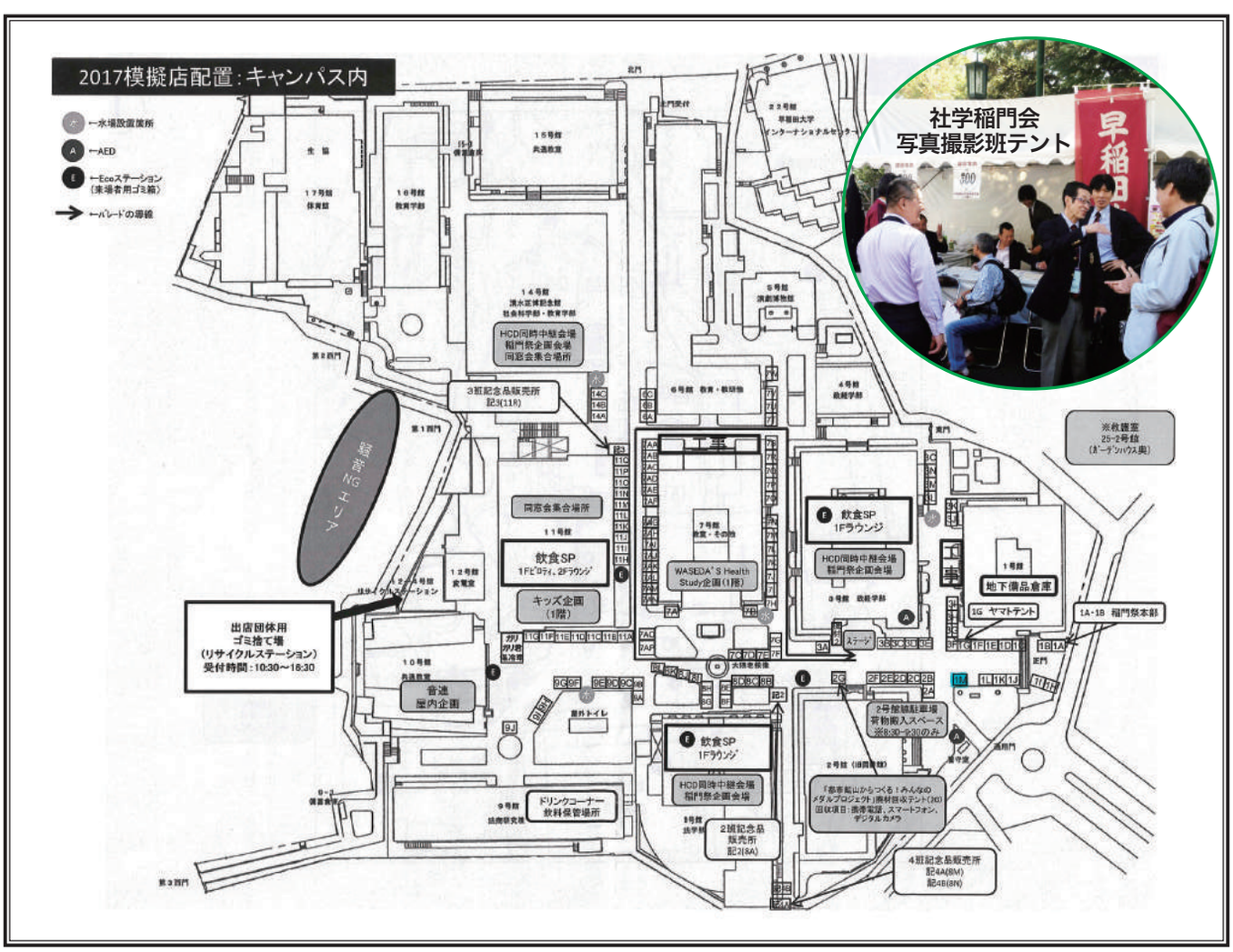
ご協力頂ける方、大募集しています。

QRコード

稲門祭「記念写真コーナー」運営スタッフ参加申し込みは、こちらからお願いします。

お申込み／ http://syagakutomonkai.com

お問い合せ／ E-mail : event@syagakutomonkai.com



「会員満足度調査」結果報告

継続したアンケート調査で会の健全な発展に寄与を！

社学稲門会
広報委員会委員長
吉田直人

社学稲門会は、奨学基金の充実を図り社会科学部の発展に貢献することを第一の目的とした会であるとともに、同等に大切な目的として、卒業生が大学教職員や学生とのつながりを保ちつつ「社会科学部応援隊」をキーワードとした会員相互親睦を図るコミュニティー、との位置づけもあります。
「楽しくなければ社学稲門会にあらず」という言葉は、まさにそのことを象徴的に表しています。

私たち広報委員会では、会のますますの発展を図るため、会の活動に対して会員のみなさまの満足度を調査しました。その結果をここにご報告申し上げます。

結果は皆様で共有し、今後の会の活動の参考にして頂けましたら幸いです。

今回の結果は、総合満足度平均が 4.0 と大変良い結果となりました。しかし n 数が 17 と少なく、また比較的好意的な会員がアンケートに回答した傾向が見受けられるため、今回の調査だけで実態を把握したとはとても言い難く、今後は n 数増加に努めつつ継続してアンケートを実施し、会の健全な発展に寄与するデータ提供をして参りたいと考えています。

今回アンケートにご協力くださった皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

■基本情報

対象者／５月 12 日総会出席者 48 名、回答者／ 17 名、回答率／ 35%
質問項目／ 15 項目満足度５段階評価にて回答、他自由回答項目あり。

（アンケート質問内容）

①総合満足度	社会科学部稲門会への満足度は総合的に評価していかがですか？
②総会	今回の総会の内容はいかがでしたか？
③定例会	定例会の内容はいかがでしたか？
④授与式＆合同クラス会	2017 奨学金授与式＆合同クラス会はいかがでしたか？
⑤奨学基金額	奨学基金額 8000 万になりました。どう思われますか？
⑥給付者数	奨学金給付４名（１名 40 万）についてどう思われますか？
⑦社ガール	社ガールの活動についての評価はいかがですか？
⑧経営者の会	経営者の会の活動についての評価はいかがですか？
⑨年会費	年会費についてはどう思われますか？
⑩事前申込	事前申込と当日申込の２段階制はどう思われますか？
⑪広報活動	HP、ＦＢ、メルマガ、学報等での広報活動はいかがでしたか？
⑫会報	2017 年会報は紙媒体でも発行しましたがどう思われましたか？
⑬オリジナルグッズ	オリジナルグッズ（T シャツ、ポロシャツ）の共同購入を企画しましたがどう思われましたか？
⑭イベント	各種イベント（早慶戦観戦、遠足、ゴルフコンペ、駅伝、スケート等）をどう思われましたか？
⑮イベント評価	あなたが参加したイベントをどう思われましたか？

■アンケート結果

	5（満足）	4（やや満足）	3（普通）	2（やや不満）	1（不満）	ー（空欄）	平均	満足率 %	相関係数	改善度指数
①総合満足度	4	9	4	0	0	0	4.00			
②総会	3	10	1	0	0	3	4.14	92.9	0.66778	1.3
③定例会	2	5	4	0	0	6	3.82	63.6	0.29032	2.4
④授与式＆合同クラス会	2	4	4	0	0	7	3.80	60.0	0.28571	3.5
⑤奨学基金額	5	10	1	0	0	1	4.25	93.8	0.47434	-2.7
⑥給付者数	2	8	3	1	0	3	3.79	71.4	0.08269	-4.0
⑦社ガール	4	4	5	0	0	4	3.92	61.5	0.37191	5.2
⑧経営者の会	1	5	5	1	0	5	3.50	50.0	0.15878	3.8
⑨年会費	5	4	7	1	0	0	3.76	52.9	0.36443	7.7
⑩事前申込	3	9	3	0	0	2	4.00	80.0	0.15504	-6.0
⑪広報活動	5	9	0	2	0	1	4.06	87.5	0.0066	-12.9
⑫会報（紙）	7	6	0	1	0	3	4.36	92.9	0.13449	-13.4
⑬オリジナルグッズ	4	7	2	0	0	4	4.15	84.6	0.40541	-1.4
⑭イベント	3	6	3	0	0	5	4.00	75.0	0.77615	9.5
⑮イベント評価	4	5	3	0	0	5	4.08	75.0	0.73494	8.6

最高点■　最低点■

（注釈）

満足率	５段階評価で５・４を選択した割合
相関係数	総合満足度との相関の強さを見る指標 ・1.0 に近いほど総合満足度との相関がある。
改善度指数	改善が必要とされる項目を視る指標 ・プラス点数が高い項目である程、効果が高い。 ・マイナス点数は改善しても、総合満足度に与える影響はほとんどない

【集計結果】

・平均点分析

「①総合満足度」は（4.00 点）で、かなり高い満足度となった。

個別項目では「⑫会報（紙）」（4.36 点）が最も高く、「⑧経営者の会」（3.50 点）が最も低い結果となった。

・満足率分析

「⑤奨学基金額」（93.8％）が最も高く、「⑧経営者の会」（50.0%）が最も低い結果となった。

【結論】

・平均点分析、満足率分析から「⑧経営者の会」について改善が必要であることが推測できる。

※多変量解析ツールを用いた､因子分析（CS ポートフォリオ分析）を行った。満足度との相関性が高く､改善度指数も高かった「⑭イベント」（相関性 9.5、改善度指数 0.77615）は、満足率が 75% と高評価であり改善しても満足度の向上余地が少ないことがわかった。満足率の低い「⑧経営者の会」（満足率 50.0%）の改善をしても総合満足度との相関性が低く（0.15878）、改善しても総合満足度を向上させることにはつながらない、ということがわかった。従って、今回の調査で言えることは、「今のままの活動を続けていくことが良い」、という結果であった。

■その他意見（自由回答）

・劉先生の講演は大変意見があった。次回も企画をお願いします。

・劉先生の講演は素晴らしい。通常の活動にも取り入れてください。

・当会は民間企業を対象としているだけではない筈ですが、公務員に対する考え方が、かなり偏っている気がします。

・稲門祭で写真プリントを担当しました。プリント前に大きいディスプレーで確認いただいた後に出力することを検討できないでしょうか。

・更に多くの校友が、より気軽に参加出来るムード造り。

・総会準備方ありがとうございました。

・事務局の方、ありがとうございます。

・年に１～２回もちまわりで東京以外のエリアでイベントをやればよい。

25周年に向けた「会史編纂」のご協力依頼

1994年1月、新沼五郎先生の呼びかけで第1期生があつまり、後輩たちに残せるものは何かを話し合い、「物」のような形ではなく、目では見えない「心」を伝えたいと考え奨学基金を作ることを決めた。その後、毎月第二水曜日に会議をしていたことから、いつしか「二水会」と呼ぶようになった。このようにして社会科学部稲門会の歴史は始まりました。

以来、来年で25周年を迎えます。25周年は通過点で社会科学部稲門会の歴史はこれからも連綿と続いていきますが、25周年を迎える節目の年に、会の歴史を振り返り記録に残すことは非常に意味のあることだと考えております。

これまで当会に関係された方は大勢いますが、その方々の記憶や机の中に当会の歴史が眠っているかもしれません。2019年発行の「社学稲門会報（第22号）」の中で、当会の25年の歴史を振り返る特集記事を掲載したい、と考えております。当会に関する事でしたら、とにかく何でも結構ですので情報をお寄せください。できましたら文書や写真を頂けると大変ありがたいです。

また、昔を知る方々にこちらからお訊ねすることがあるかもしれません。その時はどうぞ快くご協力の程よろしくお願い申し上げます。

来年の「大・同窓会」は、当会に携わった方々が総揃いしてにぎやかに25周年を祝う、文字通り「大・同窓会」にしたいものです。

【問い合わせ先・送付先】〒160-0002 東京都新宿区新宿3-11-6 エレク新宿11F

阿川グループ 阿川功 気付「社学稲門会創立25周年会史編纂委員会」宛

「社会科学部稲門会」入会のご案内

社学稲門会では入会受付を常時行っております。社学稲門会ホームページの会員入会受付フォームにて入会手続きをお願い申し上げます。個人情報は厳正に管理いたします。入会手続きと同時に会費の納入をお願い申し上げます。

会費：年間3,000円、別途、任意で本会への寄付金一口1,000円（二口以上も可）を承ります。

ご寄付頂いた会員のご芳名を会報等に掲載いたします。匿名希望の方は「匿名希望」とご記名下さい。

会費納入方法：銀行振込

三井住友銀行　新宿通支店(661)　普通口座9218220　口座名：早稲田大学社学二水会　代表　阿川　功

みずほ銀行　新橋中央支店　普通口座　2231241　社会科学部稲門会

ゆうちょ銀行　記号10120　番号73833861　社会科学部稲門会

（振込時記入例：早稲田桜子　会費と寄付　匿名希望）

寄稿 紆余曲折 人生いろいろ…社学もさまざま

青春の思いに古希あり（社学とWFBC）

宇佐美 史夫（ふみお）（1972年卒）

●学生運動が包み込み時代に生きて

卒業して50年近くになる。振返ると学業ではあまり鮮明な輝石はない。クラスは英語コースで選択は仏語を受講した。1クラス30名、内女性が3名だった。クラスメイトに元阪神タイガース監督の中村勝広氏（故人）がいた。

時代は、華やかな学園を学生運動が包み込み、横断幕や立看板は大学を象徴する感があった。クラスの仲間に革マル派のシンパがいて、いつもアジテーションをしていた。ただ一方的に体制批判や既存否定を繰り返している様に思った。クラス投票をしてデモ参加をクラス単位で実施した。

黄昏時、14号館から大隈銅像前、そして大隈講堂に続く広場を2列縦隊でシュプレヒコールに先導され学内を一周した。これも大学生になった証と妙に納得し、1日を終えた。その後1年もすると学生運動の尖鋭化が激しくなり一般学生と遊離した。明治公園、新宿駅へも出かけ、機動隊員も我々と同世代だったことがなぜか脳裏に残った。後に新宿騒乱罪事件となった現場を体験した。催涙弾、投石の応酬が続くなかその場を去った。暴力的手段には失うものはあるが、得るものはないと思った。

昭和43年9月、時子山常三郎総長より『学生諸君へ』と称し12ページに亘り現状大学が抱える問題・考え方が発表され、今現在の大学・教授・学生ができること、やるべきことを問われた。

この中で、『問題の拠ってくる根源を探求し、現時点におけるおのおのの役割を見とどけ、その上でみずからの行動を、いわば既成政治人・社会人・文化人に納得させてこそ、歴史を動かす起爆力となりうるということである。大学は学問の独立の下、学理を学理として研究すると共に、之を実際に応用する道を講じ、もって時世の進運に資せんことを期す』と強調して学生諸子に訴えた。

しかし、翌年5月から学生が半年余に及ぶ全学ロックアウトを敢行。意に反する行動となったのは残念なことであるが、後の大学改革を推し進める一端となった。

●古き良き時代の碩学との出会い

難波田春雄教授の社会科学方法論は当学部のメインテーマである。スミス・カント・ヘーゲル・ウェーバー・シュンペターなどの古典を通して近代社会の倫理を究明することを学生諸子に熱く語られた。

名物教授の木村時夫教授は、近代日本における政治思想の研究、幕末から戦後に至るまでの種々な政治思想をその時代や国際関係との関連に於いて究明。学生に特定の人物や時代の中からテーマを探す能動的な姿勢を強調された。

時岡弘教授は憲法判例研究において基本的人権に関する判例研究を中心に法の下の平等を問われた。

ゼミのテーマは「地域政治の現状と展望」で、私は当時大きな社会問題となっていた公害問題を政治・地域行政面から取り上げた。指導教授は勝村茂理工学部教授。追分セミナーハウスのゼミ合宿では先生も交えフリートーキング主体に盛りあがり、「鬼押し出し」観光のおまけも付いた。

明治村、左から二人目

社学稲門会、歴史館前にて（右端）

３年になり実務的な教科も受講した。田中由多加教授の「マーケティング論」、山之内光射教授の「租税論」。二文で「広告論」、教育学部で教職課程を受講。

体育科目は記念会堂（東京五輪フェンシング会場）で織田幹雄教授（1928 年アムステルダム五輪三段跳び金メダリスト）の保健体育論。登山家日下田実講師（1956 年マナスル初登頂）の夏季体育実習「山岳」は上高地の徳沢をベースキャンプに長塀山・蝶ケ岳・槍ケ岳を踏破した。厳しい１週間だったが山登りを謳歌できた。

●早稲田大学フロンティアボートクラブ

入学式後の５月 GW 明け、キャンパスをブラタモリ、文学部に続く喫茶キャビン前で新人勧誘ポスター「WFBC で挑戦」に目がとまる。ゴムボートやファルトボートで激流下りをする今で云う「ラフティング」だ。２年前に法学部生６人が創部のクラブは部員 15 人ほどで全学部生を網羅、まだ大学からの正式許可を得られない同好会だった。

日本では激流下りをしている大学サークルは聞いたことがなく、草分け的な存在であった。顧問の法学部・加藤経雄独語教授は、ドイツでのスラロームカヌーの経験者であった。

部活動は練習・合宿・遠征が主体。予算・機材・部室なしの手探りでの始動。まずは活動資金の金策が課題であった。各自負担をベースに協働バイト、スポンサー探しに奔走し、ボート確保のため関係メーカー巡り、マスコミへのアピール、TV 局への企画持込みで合宿費を捻出した。

運営・装備面では「クラブ規約」、「早稲田大学フロンティアボートクラブ」部旗、ユニホームを調えた。ライフジャケットやヘルメットは基本個人所有とし安全面にも配慮した。「規約」条文には規律と協調の遵守が盛り込まれていたが、部風は自由闊達でフレンドリーであった。多摩川上流や荒川上流（長瀞付近）を実践練習の場とした。基本方針はアタック隊とサポート隊による構成で、源流から河口までの野外生活と全流下りを趣旨とした。４年間で木曽川・利根川・最上川・球磨川・江川・十勝川・天塩川・日原川をアタック。

木曽川ではスタンフォード大学のモスバーグ地質学者夫婦が同行、球磨川では TBS「ヤング 720」に出演。

木曽川合宿

モスバーグ教授夫妻

全流下りの一番は北海道の大河、十勝川、天塩川である。合宿費稼ぎのバイト、河川全体の調査(地形・高低差・ダム・堰堤・補給路・移動手段・食糧調達等)、地元役所・バス会社等への確認申請、行動予定表作成、事故対策なども合わせて準備した。

●全長270㎞の天塩川遠征合宿の想い出

「天塩川遠征合宿」の計画書と報告書から抜粋して紹介したい。計画書は河川全体概要、スタート地点やゴール地点の特徴と地形、地図上の行動予定並びに日程表、アタック隊とサポート隊の役割分担と連絡方法等が記載。既に現地連絡場所やサブ用ボートを送付し、事前準備は完了。

全長 270 ㎞・高低差 520m、ダムはなく風連の堰堤があるのみ、中流以降は比較的穏やかな流れを見込んでいた。食糧は基本現地調達で自炊、チームは７人のクルーで２週間かけて下る計画。

報告書は１日目（７月 20 日）；ポンテシオ川と天塩川の合流地点から茂志利（12 ㎞）、２日目；茂志利から朝日町（23 ㎞）、３日目；朝日町から士別（24.5 ㎞）、４日目；士別から名寄（26 ㎞）、５日目；名寄から美深（23 ㎞）、６日目；美深町にて休息日、７日目；美深町から音威子府（27.5 ㎞）、８日目；音威子府から佐久（23 ㎞）、９日目；佐久から間寒別（32.5 ㎞）、10 日目；雨の為中止（間寒別）、11 日目；間寒別から振老（42 ㎞）、12 日目・13 日目；大雨の為中止（振老）、14 日目（８月２日）；振老から天塩の河口（19 ㎞）に到着。

部旗を掲げ「都の西北」が日本海に高く響きわたった。達成感と安堵感と共に、地元の協力や人情に感謝し、252.5 ㎞の全行程をほぼ予定通り終えることができた。

天塩川河口で都の西北

解散式のときの名簿上に置かれた WFBC・天塩川河口でのフラッグ写真

●WFBCの解散と我が良き友との語らい

卒業後の後日談として、平成３年にパキスタンのインダス川で激流下りをしていた「WFBC」隊員３名が武装集団「ダコイト」に誘拐、44 日後に解放された事件。クラブとしての最大の危機に、当時の現役生・OB 各位が結束した。しかしながら当人達は大変辛い体験をしたと思う。

その後平成 23 年７月に 44 年間の歴史に幕を閉じた。最後の現役生と OB の 51 名が早大正門前の「高田牧舎」に集まり解散式を催した。時は変われど同じ釜の飯を食った 300 名程のワセダマン＆ガールが「WFBC」旗の下に集まり散じた。

学友仲間ではクラスや同学部で受講した３人と意気投合した。様々な不安・悩みや夢、社会や将来について語り合い、サークル活動もした。また、時には下宿や酒場で集り盛り上がった。

卒業後 47 年経った今でも、それぞれの地元で同期会を開催し交友を深めている。通り過ぎた時間に思いを馳せるのも悪くはない。すでに東京・名古屋で行い今年は浜松で１泊２日の交流を終え、来年は福岡での再会を約した。

我々４人、出合いや運にも恵まれ金融機関や上場会社の役職員を定年まで勤め上げて「古希」を迎えた。

●宇佐美史夫さんプロフィール

名古屋市生まれ。愛知県立昭和高校出身。
1972 年社学卒（のちに名古屋市立大学経済学部修士課程修了）。大学卒業後、名古屋相互銀行（現･名古屋銀行）入行。関連会社名古屋エージェンシー㈱を経て、㈱トウチュウ監査役（常勤）、現在に至る。
趣味：テニス、読書、旅行。

寄稿 紆余曲折 人生いろいろ…社学もさまざま

稲門会との出合いで、定年後の人生に希望の光が…

渡邊　薫（1985年卒）

スキー合宿授業にて

ここ数年、ふとした事よりFBを始め、社学設立50周年の記念式典に参加させていただきました。30年ぶりに母校を訪問し、感激ひとしおでした。また、それを前後として多くの先輩、同期、後輩と知り合うことが出来ました。今年、小職57歳となり第一次定年まであと３年になりましたが、今回、会報誌の寄稿について仰せつかり、誠に僭越でありますが、書き綴ってみたいと思います。

●生い立ちと大学受験まで

私は昭和36年横浜市で生まれ、地元の小中学校から進学校の県立高校に進学しました。子供の頃、漫画が得意な母親が横山隆一さんの描いた早稲田の角帽を被った「フクちゃん」を新聞広告の裏に鉛筆で描いたのを見て、漠然と早稲田大学への憧れがありました。

高校時代は硬式野球部に属し、３年間補欠でした。最後の夏の甲子園予選１回戦、まだ開設まもない横浜スタジアムにて、代打ランニングホームランと２塁打によって打率10割で終わったのが一生の思い出です。３年間一日も休まず練習に参加していたのを監督が評価してくれたものと思います。現役の時は野球部の練習でくたくたで、早稲田をはじめ他の大学も全落ちでした。

浪人時代は経済的理由で新聞配達をしながら高田馬場の早稲田ゼミナールに通いました。朝３時起床で朝刊、それから予備校に通い、帰って夕刊配達。そして、仮眠、予備校の復習。もっと勉強する時間が欲しかったのですが、お金がないので仕方がありません。ひたすら受験料と入学金を貯めました。縁あって社学に合格した時は苦しかった浪人生活を思い合格掲示板の前で泣きました。

●大学時代と就職活動

大学の授業は当時、木村時夫教授、大畑弥七教授、田村正勝教授、岡澤憲芙教授等の授業を受講し、最前列で聴講しました。授業料を自分で捻出しなければならなかったので大隈奨学金と日本育英会から貸与してもらい、残りは当時破格のバイト代であった配膳会に入り、主に横浜東急ホテルで結婚式等の宴会やラウンジ、バー等、たまにホテルオークラで働きました。

サークルはＫ女子短大と旅の会「シャトルループ」を設立し、京都、奈良、白馬、軽井沢、北海道等に旅行しました。大学時代の体育では、１年生の時はシーズンスポーツでスキーに当選し、菅平高原の５泊６日合宿でバッチテスト４級（パラレル）に合格したのが思い出です。

３年の時はソフトボールで西大立目先生にご指導いただきました。会社に入ってから、上司がNHKの高校野球解説者で社会人野球の優勝監督であったため、

女子大とのサークル旅行にて（左端）

●渡邊　薫さんプロフィール
出身校：神奈川県立横浜緑ヶ丘高校、1985 年卒、宮沢ゼミ、旅行サークル所属
勤務先：日本生命、居住地：愛知県東海市（単身赴任５年目）
家族：家内と二男一女、長男 26 歳（リース会社）、次男 24 歳（外資系証券会社）、長女 15 歳（高校１年）。長男は昨年結婚、次男は今年就職で独立しています。二人とも早稲田を目指しましたが、残念賞で六大学の他の大学出身です。残るは長女に夢を託しています！

先生と銀座で偶然にも飲む機会があり、教え子だと可愛がって頂いた事があります。

３年からは宮沢ゼミ（経営管理論）に所属しました。宮沢先生は東海大学の教授も兼任され、菅平でのゼミ合宿で夜遅くまで社学の将来を語り合い、先生が仰った通りに 30 年後になったのは驚きです。先生には就職の相談にものってもらいました。

就職は生命保険会社と銀行を中心に受け、日本生命と地銀に内定を頂き、少し迷いましたが、日本生命に入社しました。弊社の採用は総合職と営業総合職に別れており、後者が主にリテールを担当します。ジョブローテーションを経て、最短６年目で街中の営業部のニッセイレデイ（昔のニッセイのおばちゃん）の営業と労務管理をする営業部長になります。

表面的には学閥がなく、稲門会活動も最近、解禁になったようですが､学歴には全く関係のない社風です。若い時は小規模拠点（15 ～ 20 名）、働き盛りの 40 代は 50 ～ 100 名位の大規模拠点を担当しますが、私は愛知県東海市に単身赴任５年目で中部国際空港（セントレア）の常滑市と知多市、半田市の一部を現在担当しています。

仕事はハードで土曜日も勤務なので、なかなか横浜の自宅に帰宅できません。しかしながら土曜日のアフター６は地元の仕事と関係ない知り合いもでき、近所のどれだけ飲んで歌っても 2000 円のカラオケ居酒屋で楽しく過ごしています。

また、名古屋はモーニング文化が盛んで、毎週土日は近所のお気に入りの喫茶店での小倉トースト、茹で卵、珈琲（コーヒーチケット 10 枚綴り 3000 円）はお値打ちです。日曜日の午前中はスポーツクラブで汗を流し、温泉に入り帰宅、昼食をとってお昼寝。午後は図書館で読書をして、隣接する東海市大池公園で２㎞お散歩、帰宅してビールで夕食です。単身赴任、万歳！

稲門祭の前夜祭にて（上段右端）

稲門祭の社学出店で記念撮影

●稲門会との関わり

母校には縦、横、地域等の稲門会がありますが、私は社学稲門会（縦）、年次稲門会 「メタ穂会」（横）、知多半島稲門会準備委員会の３つの団体に所属しています。私は今まで家族のために一生懸命働いて来ました。この場では省略しますが、家族の死や仕事の左遷等、悲しく辛いことも多かったです。

しかし、稲門会と出会い、定年後の私の人生が豊かで楽しいことが期待できるようになりました。一昨年の学部設立 50 周年の際、社学の所沢移転回避や政経学部に先んじての 14 号館建替には学部として甚大な努力があったということを初めてお聞きし、あらためて学部の地位向上に頑張ってこられた先生方には感謝の気持ちで一杯です。

定年後はできれば稲門会活動やもう一度本当に勉強したかった江戸時代の文化の勉強とご先祖様に当たる橋本左内の研究をしてみたいと思います。

最後になりますが、今年も秋の稲門祭に参加しますので､皆様にお会いする機会もあろうかと思いますが、今後とも宜しくお願いします！

ゼミリレー⑳
久塚 純一 ゼミ

千葉 文彦
（2007 年卒）

ヴァルトブルク城に守られながら

●大学院時代にゼミに所属することに…

JR 国分寺駅北口のスナックで、毎晩、いつわりなく毎晩、飲み明かす。特定の領域の集まりでしか通用していない「ことば（専門用語）」の数々に苛立ち、誰も理解できていないにも関わらず疑うことなく必須古典として崇め奉られている文献の山々に辟易としていたことや、ゼミ仲間の死。そして、自身も欠席続きでゼミを破門状態にあったこと、何もかもから逃れるために、スナックに入り浸り酒漬けの毎日。二日酔いで大学のベンチにうずくまり、寄ってきたスズメやネコに声をふり絞り「やあ」と挨拶をするのがやっとの日々。

高校卒業後、普通に浪人し、普通に大学に入り、普通に就職をしたものの、かつて五木寛之の『青春の門』を読んだ記憶が甦り、会社を辞め 25 歳で代ゼミに通い、現役と一緒に社学を一般入試で受験。無事合格した社学ではゼミも卒業論文も必修ではなく（現在はどのようなカリキュラムになっているのかは分からない）、異性との出会いや有るか無いかが判然としない就職活動時の教授のコネを求めなければ、学部でそれらを履修登録する必要はなかった。従って、私は学部時代にゼミを履修していない。私がゼミに所属することになるのは大学院に入ってからのことであり、この誌面で紹介するのは、その存在をあまり知られていない社学の大学院「社会科学研究科」時代のお話である。

●久塚教授はなぜ私の面倒をみようと？

親のお金も、これ以上は親に頼るまいとして工面したお金もスナックの飲み代に消え、いよいよマルイのカードキャッシングに手を出してまで飲むようになってしまっている頃、大学から一通の手紙が郵便で届いていたことを思い出す。その手紙は留年者や学費滞納者宛に届く通知で、悩みごとが有ればいつでも大学に相談すること、という内容が書かれていた。青春の門の時代とは違い今のワセダはずいぶん親身であることに感心しつつ、すがる思いで相談希望のメールを大学事務所へ送ると、面談をするので大学事務所に来るように、との返信がすぐに来た。

久塚教授、大学職員のサイトウ事務長とタナカさん、そして私。３対１での面談では「大学院を修了するために助けてください」、と素直に救いを求めた。久塚教授は実はこの時点では私のゼミの指導教員ではなく、「何か」を抱えた学生の対応をする「教務主任」としてこの面談に来ていた。

数回の面談を経て、久塚教授は、正規の指導教員に代わって私の研究指導と生活指導の全ての世話を引き受けてくれることを、自ら申し出てくれた。なぜ、久塚教授が私の面倒をみようと決心してくれたのかは、今もその理由を私は知らない。

晴れて久塚教授のゼミに迎え入れられた私は、自分を受け入れてくれる場所がスナック以外にもあること

14号館付近にて久塚教授と自撮り（2018年7月）

研究の合間に会いに行った北門の仲間

への喜びでいっぱいだった（久塚ゼミには美人留学生が多く在籍していたのも喜びの理由の一つであったことは間違いない……。ジャーナリストの津田大介さんも学部での久塚ゼミ出身である）。

●久塚教授と過ごした日々の出来事

教場で教わった久塚教授の学術的指導については紹介を省略させていただくとして（興味ある方は成文堂から続々刊行中の久塚教授の各テキストをご覧ください！）、この誌面では、私が久塚教授と過ごした平均的・象徴的な日常をミックスして簡単に紹介したい（多少、記憶の美化が混ざることをご了承いただきたい）。

お昼に神楽坂方面へ久塚教授と二人で散歩し近況報告をしながらランチを食べる→一旦解散→夕方に久塚教授の研究室を訪ねる→研究室内に立てかけてあるフェンダーのギターの前に着席し、教授から差し出された文献を黙読する→沈黙（教授はその間、フランス人研究者とメール交換をしたり、若き日に奥様と一緒に撮った写真を眺めたり、文献を読んでいる私の顔を観察したりしている）→読んだ文献の感想を教授に伝える（この感想に対して教授は特にコメントをしない）→教授が仕事を終えるのをギターの前に座りながら黙って待つ→二人で居酒屋へ行き、研究テーマについての指導と「親を大切にするように」などの生活指導を受ける→居酒屋を出てコンビニで買い物をし、早稲田と雑司ケ谷の間にある急勾配の坂道を購入した水（2リットル6本）を持って上り、雑司ヶ谷の教授の自宅に運び、体調を崩されている教授の奥様に水をお渡しする→教授の奥様からねぎらいの言葉をかけられる。→解散。

日常行動の一つ一つに明確な目的を設定し（奥様に水を届ける）、そのために汗をかき（重たい水を運ぶ）、

久塚ゼミの学生と苦楽を共にした大学院生室

その結果に対し自分で評価を与える（奥様からのねぎらいの言葉を素直に喜ぶ）。この過程を私に経験させることが久塚教授の狙いで、水を運ぶミッションを何回か経験すると、狙い通り、目的に設定されていないスナック通いは（水運びの疲労もあり）私の生活から消えて無くなっていた。

●久塚教授と両親が健在のうちに…

みっちりと久塚教授に研究指導をしていただいたものの、私はその研究成果をあえて自身の修士論文の中に残さなかった。形式上、私の製本論文には久塚教授の名前が残らずに旧指導教員の名前が刻印されてしまうのと、この論文を、私が専門とする特定の「分野グループ」が抱える学術的現状に対しての「論題」にしたかったからだ。

この論文が「幸い」して、私は上記「分野グループ」に属する個人から正式に破門宣告をされたが、現在は、比喩としてのヴァルトブルク城に守られながら（久塚教授と大学からの保護を意味する）、久塚教授から教えていただいた理論を基礎に、記憶に関する「文書」を書きためている。

久塚教授と自分の両親は同い年で、私の母親（飲食店で、苦労をしてそうな若者を見つけては、母は放っておけずその若者にお金を渡してしまう）も最近めっきり体力が落ちた。3人が健在なうちに私の「文章」を世に出したい。久塚教授の最終講義は、2019年2月2日。

●千葉文彦さんプロフィール
東京都小平市出身
國學院大學久我山高等学校卒業
2007年、社会科学部卒業
2016年、社会科学研究科修士課程修了
現在、早稲田大学総長室校友課・校友会事務局勤務

編集後記

暑い夏でしたね。ここ何年か毎年毎年同じことを思っています。環境問題の専門家に言わせれば、地球温暖化に歯止めはかけられないとのこと。気持ちだけでもと思い、エアコンを扇風機に替えて氷枕で熱帯夜対策です。
来年はいよいよ定年。もちろん会社に残ろうと思えば残れますが、数年前から定年後の仕事と遊びを考えながら、準備を進めてきました。今回インタビューした海老原さんのお話を聞いて、中高年も起業にチャレンジするのも悪くないなという思いを強くしました。
来年は今とは別な名刺を持って、皆さんにお会いできるかもしれません。ハイブリッドな感覚で何ができるか今からワクワクです。
（伏見英敏）

昨年、単身赴任中に地方の方こそ会報を楽しみにされているのではと感じ、定例会に出れない方に今回寄稿をお願いさせて頂きました。皆様ご多忙の中、早々にご協力を賜りあらためて御礼申し上げます。
さて、2020 年に向けて東京は激変し、外国人の訪日者数も 4000 万人になるとの予測です。更なるグローバル化に伴い、様々な場面で社会貢献が求められることになるでしょう。小生も何か挑戦したいと考えていた矢先に、縁あって横浜国際競技場のボランティアを始めることにしました。来年の今頃はW杯ラグビーに関われるよう、秋からは体力増強に専念したいと思います！　（米津　昭）

昨年の会報誌発行後、全国の社学 OB・OG からたくさんの感想やメッセージをいただきました。各種イベントとは違い、会報誌は全国の社学 OB・OG 全員と同じ想いでつながりを持てる大切なツールだと感じながら……今年も編集のお手伝いをさせていただきました。
（新谷俊樹）

社学会報誌は昨年、数年ぶりに紙媒体で発行し大変好評だった。手に取ったときの会報誌の「重み」と「質感」が、寄稿者が記事に込めた「思い」と「熱気」を伝えてくれるのかもしれない。アンケートでも「紙」にしたことへの満足度が第一位と高かった。会報誌編集に携わった一人としてとてもうれしい。会報誌の編集をして今年で 2 回目。今回も川端先輩の仕事の速さと質の高さには感銘させられた。紙面を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。　（吉田直人）

編集担当

川端光明（S54 年卒）米津　昭（S57 年卒）
西宮正明（S57 年卒）伏見英敏（S58 年卒）
吉田直人（S63 年卒）新谷俊樹（H3 年卒）
野口　淳（H13 年卒）関根健児（H16 年卒）
佐藤英明（H18 年卒）下地彩子（H18 年卒）

発行　「社学稲門会」編集委員会
発行人 早稲田大学社会科学部稲門会
〒 160-0022
東京都新宿区新宿 3-11-6　エクレ新宿 11F
阿川グループ 阿川功 気付
TEL.03（5368）2245 FAX.03（5368）2246
E-mail：info@syagakutomonkai.com
http://syagakutomonkai.com/

早稲田大学「社学稲門会」ホームページ

http://syagakutomonkai.com/

このホームページでは、「社会科学部卒業生奨学金」制度の概要、基金の収支、活動の近況などを報告しています。また、この運動を支えている OB・OG の会＝二水会（毎月第２水曜日に打ち合わせ）の活動、親睦の報告なども紹介しています。なお、この「会報」のバックナンバーについても、今後掲載を予定していますので、ご期待いただければと思います。ぜひ、一度アクセスしてみてください。

「Facebook,Twitter」
もご活用ください！

「社会科学部稲門会第６回総会」

恒例の校歌斉唱でのフィナーレ